光

(4)

大正十年九月號

◆聖徳太子と不二の光……乞子詰

◆反省と態度……西田天香

◆生活と仕事との關係……西田天香

◆三種の懺悔……中桐確太郎

◆夜半の水音……靈逸

◆社會改造の準備……藤井悌

◆對話……松下吉衛

同人　懺悔報恩の奉仕者
所願　不二の光明によれる生活
費用　供養されたる浄財

◆天華香洞錄……乞子詰

◆基督教より光へ……F子

◆赤城にのぼる……張谷僴一郎

◆一宿兩餐の記……木村毅

◆一燈園だより……京都一燈園

◆返照錄……遠近兄姉

一燈園・宣光社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は即ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

不二の光明によりて新生し、許されて活きむ。

諸宗の眞髓を禮拜して歸一の大願に參ぜん。

懺悔の爲に奉仕し、報恩の爲に行乞せん。

法爾の清規に隨ひ、世諦を成ぜん。

即ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せん。

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委ね佛に養はれ、他に障りなき生涯を送らざる可からず。

内外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆倶成就大圓覺

別願　將來世界眞平和

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず、古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脱るゝことを得べき。願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生産業に即して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し、以て在家俗諦を成就せんことを期す。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天國、文明の隆興も進化の事象も乃至清規戒行も、此の見地よりすれば則ち一の遊戲三昧に過ぎず。憾むらくは箇中の消息、もとより言說の彰顯し得る限りにあらざるを。

暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。

天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尚自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその清規によりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷、紛爭、葛藤を根絕し、以て齊家、治國、平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じては即ち無相不二。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

聖徳太子と不二の光(ひかり)

乞　子　詰

光明祈願に規範の三相が書かれてある、「天華香洞」「一燈園」「宣光社」と何だか六ケしき名をならべてと我も思ひ又人も思ふ。

是は始めから揃へて造つたものでなく、十五年に亘つて實際新生活を試み、且實現する上に於て、是非共必要であつたことに、何か符號がいるので偶然この様な名が付いた。名には執着してはならぬが、此名によつて代表されてあるそれぞれの規範はどうしても必要である。

假令ば一家庭でも一人でも、今實現にゆきつまつて新生涯にと志して來られるとすると、小さうても大きくても此三相の扱ひがある。

生死に囚はれ有無に迷ひおひつめられて不二門(新生涯)へ入るとき、先づ大死一番して(といへば六ケ敷い様なれ共、死んだと思うて彼岸へ渡らせてもらひなされといふまでの事)光にてらされる、是を天華香洞に歸るといふ。それは生死を離れ、永遠に復活し、有無不二の妙相に住することで、脫明の絶えた狀態である。而かもそれは唯精神的抽象的といふ様なものでなく惺々不昧露堂々たるものである。假りに姿を懺悔奉仕の様にあらはすとき一燈園の淸規が生れてくる。「不背受之」の行相で家庭ぐるみでも各々光に直參して無相の奉仕をする。是は無所有の態度である。資生産業の家に奉仕して資生産業の作務を行じても、已れ所有することなきが故に、此場合に於て前に所持せる種々の財物がある。小は一枚の不用の衣服より大は國家に至るまで、すべて「あるもの」をどうして正しく扱ふかといふ問題に逢着する。玆に宣光社の規範が必要となる。所有慾でなく假所有の態度である。已れ等は光に養はれて何等のものも必要なけれ共「此あるもの」を光の名にて假に得る態度如何といふ事になる。八ケ間敷い勞資問題も此事實に於て假所有として扱ひ得るならば造作もなく解決され得ることである。

此三つが備はらいでは、世間は建たぬ。世界の雜透の問題も此三ツの態度が精細に建立されるときは解決の糸口のあくときであると思はれる。

處がどうしたものかすべての宗教に今現に事實の上に此三事が顯現されてゐぬ。一燈園の態度が出ても驚く、宣光社の規範を出しても「そんな事までせずともがな」と逃けようと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

する。天華香洞に至ては、たまに雲厚うして峯を見ずといふ樣な狀態である。

而して之れを聖德太子に見ると何となく此三ツが具備してあるように思はれる。蘇我からいどまれた戰ひには太子の遺族は擧つて自から捨身三昧に住し自殺して迄爭ひたまはざりし事實があるかと思ふと、十七憲法を制定するを主として百般の制度を建て、あらゆる社會事業より內外外交及文化宗敎藝術等に至るまで、親しく建設勵精されてある。前にあるかと思ふと後にありといふ樣になるので、太子はそも如何なる人ぞと拜しきはめようとすると維摩の樣に神變不可思議となる。太子は人か光かといひたくなる。深く紫雲の上にありて而かも現實の細かい事迄手を垂れ足をおろしてある。秦川勝など丶建築を敎へ漢織呉織をよんで織物を奬勵するなど、宗敎は何宗ともなく、今でも大阪四天王寺は八宗兼學である。

斯樣なわけから、不二の光は聖德太子に非常に近い。自分は時々四天王寺に詣でる。太子殿にずつと通つて燈明をあけてもらひ、しばし默禱すると太子の線が動く樣に思はれる。あまりに此思ひが世間に通らぬときには此太子殿で太子樣に告げに往く。一つのからだを二つにも三つにもつかふ事で世間から鵺の樣だと叱られても又太子殿にゆくと慰められる。無論自分は不純なもの不德なものなれ共、かうなつてゆく事は自分の細工ではない。芝居めいて見えるとも咎められる、けれどもそれも自分がするといふより、種々の問題にさうさせられる。後になり先きになりはするが、自分の都合をさきにきめずに、他の要求に自分を任す爲めだらう、など丶複雜な間に出沒して、あやしい足元を光にみちびかれてたどつてゆく。かうした時にいつも太子さんがうなづいて呉れられる。恐らく太子は何宗からも反對はすまい。又所謂物質主義唯物史觀の側からも他人扱ひは出來ぬはずである。皇室の出であつて極めて民衆に近く、何だがあまりに己れの國だけをえらいもの丶樣にもあつかはずに世界を一視同仁的に扱はれたように思はれる。

自分に取つては太子樣はよい相談相手又慰藉者（一寸もつたいない云ひ方なれ共こんな親しいきもちがする）である。一體不二門の光と聖德太子とはどうした深い因緣歟。

大正六年二月十一日の事であつた。又造が須磨で病院にあつたとき、愈もう起てぬと覺悟定めた翌朝の事、自分に「兄さんわたしを托鉢させてくれ、死ぬ迄に仕殘した事があつては氣にかゝるから」といふ。もう一ケ月程しか持つまいといふ重患を路傍につれて出よといふので自分は途方にくれたことがある。その時須磨からはる〲獨り衣夜かけて汽車電車で太秦迄やつてきた。

その時フト筆をとつて書いたものがある。その內に太秦を第一道場とするとしるされた。太秦といふ處は太子の最初の道場である。妙な歷史もあるが別に之れは書くこと丶して、爾來時々太秦詣でをする。然るに此度その廣隆寺（太子殿を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

中心にしての寺眞言宗）は自分の法友なる清瀧さんが住職となられた。不思義の奇緣と思ひ、園からお内輪の樣に男も女も奉仕にゆく。自分も此頃緊張を要する事ありて一夜參籠を思ひ立つた（本月廿五日）がさはりありて果さず。然るに翌朝まだ起きぬ前にしきりに太子の三經の事を夢より現つに思ひ浮べた。「なぜ太子は三經の必要を感ぜられたが」「澤山な經からなぜ三經（三經とは維摩經法華經勝鬘經）を撰み註釋迄試み、いはば太子教の正依の經とされたのか」と思ふ内フト「天華香洞は維摩經のあらはれなり一燈園は勝鬘經を實行せんとせるものならずや而して今汝が苦心せる宣光社こそ卽法華經の所攝にあたれりと知れ」と喝破された樣な心地がしたら、成程とはつきりしてうれしくてたまらず、飛び起きて顏を洗ふとすぐ、朝餐もいたゞかずに太秦へと躍りゆきたるに、今しがた清瀧さんは門を出て京に往かんとする處であつた。其日一燈園から谷野岩淵兩氏にきてもらひ太子殿を大掃除をさせてもらふ最中に、富岡鐵齊翁の令夫人（今年七十四の矍鑠たる女丈夫にして自分は其堂々としてしかも溫良なるに敬服したり）が翁の代表として參拜され、燈明料供菓も丁寧に更らに打たれたるは古式燧匣と鐵齋翁自筆で題せる杉柾の燧匣に中に打金燧石にホクチ迄添へたるを供へ、いはるゝ樣は鐵齋がします、昔し日本武尊が東夷征伐の時にも燧石に打ちたる火もちて照されたとの神佛の燈明は必らず燧火にてあけらるゝ樣にとの願であり升」云々自分は此床しき老翁の尊き信心に胸をうたれて「丁度お掃除をしてゐますあなた手づから今日は燧火して供燈して下さい」と申したれば喜んで供へられ、色々の昔しがたりを太子樣を前にして聞きとられた。あとにはゴルドン夫人の友人として二人の外婦人迄來られて臨時住職代理も忙敷かつた。

一燈園は段々太秦に近くなりさうである。自分は宣光社の趣旨を發表してから既に二年、趣旨は今でも一字半句改むる必要を見ぬが、事實としての事業は種々のさはりでまだはつきり宣光社になりきらぬ。法友の心をいため同情ある出資者の神財もまだ活きて來ぬ。全體の此恐慌にとなぐさめてくれる友あつても、自分の不德はゆるされべくもない。無理になれば禍ひを大きくするし、然らざれば責任回避となる。一度び十五年前に事業は捨てた身でありながら供託された財物を理想的にとて假所有の規範を作らんとして、相當の試練を受けてゐる。

金はいらぬといふ一燈園の天香と、金をからねばならぬ宣光社の市太郎は、鵺の樣に見らるゝも無理はない。一燈園か宣光社か、どちらも今は最必要なる時である。此二つが別々になつてもよくない又一つになつても今では差支がある。筋道ははつきりしてあつて、應用にまだなれぬなさけなさがある。眞面目な法友にしかられたり、慰められたり、事業の方からは明日の米もないと催促されても、與より與はる迄は許されぬ資本をからうとせぬ市太郎は己れを責むるより外に道

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

はない。一燈園は段々世人に注目されて一段も二段も深く祈りをこめねばならず。天華香洞は六萬行願を一日も早く結成する事になつて、自分は大分疲れて神經衰弱のきもちであると云ふ始末、何となく落付かぬは、勿體なくも不二の光をどこかに少しはきちがひしてはゐぬかなどと思うて切に祈願をこむるとき、「三經は汝等の三規範なり」とさゝやかれたのはまことに無上の力である。

考へて見れば過去十五年あとから見れば妙に符節を合す様な事が多い。往かんとするときは切につらいが來たなと見ればみな光の御試練であつたともいへる。まことに今は聖德太子を再生せしむる必要あるとき也。それ〲の宗門何れに愚はなし。宗門の人は宗門の人として躍出してほしい。それが無相迄飛躍するとき不二の光と手を携へられる、何れまされり劣れりといふにあらず、不二は何れの宗門をも中よく事實の上に於て手を携へるに適せり。若し强ひて此實際生活に於て統一するに適當なる人格をといへば聖德皇太子は唯一無二の御方なるべし。自分等同人は跪いて此聖なる事業に奉仕せん。宗門の内より傑出せる實際生活者はその宗門の人を率ゐて總ての宗門の人と一つになり、教壇より光によれる勞作へ赴き在家門徒信者等の生活狀態と親しく交涉研究して、道心と經濟生活を本本より歸一不離ならしむるは、最緊急にして重要なるべし。

資本主義が社會主義や共產主義になればとて、(一時の過程に或はさうなる事がたとへありとしても)それが決して本來のもの理想のものにあらず光本主義(玆には說明を略す)こそ究極のものなれ。破壞を經ずして又少しの妥協をも許さずして各階級がそれ〲己れの誤れるを先づ覺り改め建替へて、相敬互讓の謙德を以て、さしもに世界難透の問題を說明實現する事は、所謂大丈夫兒人天師佛の聖業なりと思ふ。

種々の試練にあうて、不二の光と聖德太子の契合を靈覺す。思ふに先輩諸兄も同じ靈感(名は何とつけようか)をもたるゝならむ。驥尾に附して起たんことを祈る。提導を吝まるる勿らんを願ふ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

反省と態度

西田天香

自分の態度が良いか悪いかは、自分が一番よく判かる。何ほど誤魔化さうとしたとて、誤魔化せるものでない。不安といふ奴は確かな證明である。も一つは人に無限に與へられる何ものをも持たないことも更らに確かに自分の態度の完全でない事を示すものである。

ほんとうに自分の態度が完全となつたときは、己れに何の不安がないのみならず、如何なる問題に對しても理屈だけでなしに眞にその人に落付を與へ得らるゝものである。隨つて何等の形式に於ても他に對して己れの爲めにとては少しも要求をもせいでもよいのである。

此標準によつて、常に己れの完きや否やを反省する事が必要である。私はこれだけは忘れたくない。

併しこれが、妙なことによつて常にわすれがちになる。一寸その二つ三つを數へて見ると

第一極めて小さい目先きのたのしみによつて忘れる。

第二若い元氣によつて忘れがちになる。

第三當座の健康によつても忘れがちになる。

第四成功することも(普通の意味に於て)又然り。

第五是は少々複雑だが反對な議論や、實際に攻撃されることによつても忘れる事が多い。

第一の目先きのたのしみは、反對の方から見ればよく判る。それはお互はその正直に持つてゐる不安を忘れる爲めに、つねに目先きのたのしみを求めてゐるのがよい證據である。

第二の若い元氣といふものは、俗にいふ「若い時は二度はない」といふやうな勢のもので、いはゞほんとに手をまはした思案が出兼ねるのである。からして不安であるべき事實を澤山はらみながら、そのまゝに氣付かずに過ぎる。

第三當座の健康といふものは、年は隨分分別盛りになつたものでも、そのほんとに落付いて居らぬ事を忘れがちにさすものである。よく一寸病氣でもすると、俄かに今迄と變つて道心を求めたりすることば、その平常必要であるべき反省を當座の健康の爲めに忘れて居つた證據である。

第四の成功も前二つと異相同體である。成功した時ほど反省を忘れやすいものはない、數にたよるほど不安はない。その尤不安なときに、反てその不安を誤魔化してゆかすものは此所謂成功である。

右の四つは一寸から説明すれば、成程とわかりはするが第五の反對される時に、そのあるべき不安を忘れるといふのが妙な作用である。是は一寸氣がつかぬ。

人間といふものは、かなりに強く己れを辯護したい性分を

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

持つてゐる。少しの反對もないときは、自分の不安を覺へても、何か攻撃でもされると、むきになつて辯護をする。即まけじ魂とでもいふものか。勝つて終つて痛快でなければならぬ時に反て已れの不安を感じる。

曾てかうした話しを聞いた。

日露戰爭の當時、軍事探偵を捕へて銃殺をせねばならぬ時に。一列に前にその銃殺すべき敵人を立たせた。無論、自由は束縛され、直立不動にしてあつた。唯その刑の執行者が、引金一つ引けばよいことになつてありながら。それを引おとすまでに、また何らか一つの必要なものがある。それはいかにも案外なものであるのです。そんなら何？ それは殺されるべき敵から怒りを貰ふことである。云ひかゆれば、もはや、何の抵抗力もない敵がことにその觀念の眼を閉ぢて、念佛の一聲も口の內で唱へられてゐた時は。その引金を引くのは、いかにも不安の極であつて人類の問題としては緊張の極度であるだけに、そは役目とは云ひながら、どこかに強く更らに〳〵高い意味の反省を促されるのである。これは實に厳かな問題で、又どれほどの人物でも明かに、適當な人類の靈覺を全ぅするものはあるまいと思ふほどの事である。そうして又人類である以上、餘程の獰惡漢にあらざる限り、誰れでも同じやうに感ずる筈の問題である。けれども、その場合少しの猶豫もならぬ。端的に問題が肉迫しても又端的に決行してゆかねばならぬ。してまたそれは大抵は餘地のない事で、否でも應でも引金を引かねばならぬのであります。そこで誰れが發明したものか敵の頬を一つ極めて強く叩くのであるさうな。すると人間だもの、殊に敵に叩かれるのだから、喝と眼をむいてにらむさうな。それは一生懸命に滿身の怒氣をあつめて顏面に憤怒の色をあらはすさうな。さもありさうな事である。この憤怒こそ實はこちらが引きかねても引をねばならぬ已が職分をはたさせてくれる誘因となるのであるさうな。何んと皮肉なまた悲慘な必要ではないか。つまり、敵ににらんでもらふ(反抗される)ことによつて已れの不安を忘れさせてもらふのである。これを倒さにすれば常に反對されてゐるときは不安を忘れかちであるといふことになり。又さうした反對のないときは靜かに已れの反省をする事が出來るといふことにもなる。また常に議論ずきなものは反省を怠ることになり、反省を怠つての不安を議論で忘れやうとすることになる。誠に危い事であつて。眞に忠實に道を成する爲めには心得ねばならぬ事である。禪家で「聖胎長養」といふ事があるが。何でもほんとのあかぬけする爲めには、一切議論とか評論とかを避けて、靜かに已れの落付いて居らぬ處を、反省又反省せねばならぬと思ふ。

此五つの事は、ほんの一例にすぎぬけれど、よく注意をして取かへしの就かぬやうな事のないやうにと、私は祈つてゐます。更らに、その內容の充實卽眞の不安のないやうには、已れの態度が一切の人に對して無限の何ものかを與へ得るものでなければならぬまでの、修養をするには、事容易でないけれども。苟も眞に一言一句に責任を感ずるものは。此考察を等閑にしてはならぬと思ふ。(大正十年六月八日)

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

生活と仕事との關係

西田天香

ある日のこと。一人の青年が園へ來られて、自分の生活様式と一燈園の托鉢との比較考察に就いて、私が聞かれたことがある。

『托鉢は是非ともせねばならぬものでしやうか。』

『托鉢とはどうしたものかといふことを判然せいでは一寸お答へしにくいとおもはれますが。假りに托鉢とは光の名によつてなら『無相の遊歩』ぢやとか、又『我』といふ考へからなら『懺悔奉仕』であるとするならば、是非ともせねばならぬものゝやうに思ひます。』

『それは仕事は、どんな種類の事でもよいのでしやうな。』

『一通りはまづどのやうな仕事でもよいとして差支はありますまい。』

『一通りでない方のことをも承りたいものですが、それはあとにさせてもらつて、もうすこし、なぜ是非せねばならぬかといふことを伺ひたいですが。』

『それは、第一自分が一番落付けて、また一番他を害しませぬ。』

『さうすることが落付ける人は少數であつて。落付けぬ人が多いやうに思はれますが。』

『その多いやうに見へるのは、已むを得ぬから無理にあきらめてゐるまでのことで、ほんとに落付いてはをらぬらしいと私は思ひます。も一つ突込んで申せば一度試みに懺悔奉仕の落付方を試して見たら、前の落付いたはたゞあきらめに過ぎなかつたことを知ると思ひます。』

『では、やらねばならぬとします。しかしやる氣にならぬ間無理にやらいでもよいやうに思はれますが、その時はどうしたものでせう。』

『やりたくなるまで待つならば、もしやりたくないなりになつたときは困つたものですな。』

『でも無理をするのは、不自然ではありますまいか。』

『そのまゝがきつと大自然であるならばですが。』

『…………』

『今のまゝか、どうかせねばならぬのでの要求である以上無理でもやるのが自然かも知れませぬ。自然といふのに、人間の考へる自然と、本來の自然と二事あるやうですね。その人間より見まする自然は、私の新生涯では不自然とな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

つてしまひます。『光』よりする自然と、人間の見る自然との違ひですな。』

『なるほど。しかし可なりに自分によつて安心してゐる家庭のものを驚かすに忍びぬやうな氣がしますが。』

『今のまゝで、家庭の方は落付いてゐなさるといふことが證明さるゝならばね。』

『なるほど、さきのはなしと同じわけですな』

『………』

『落付かぬときは、何とかせねばならぬと思つながら、又馬鹿に落付いてゐるときもあるのはなぜでせう。』

『當然考へねばならぬことを考へる眞面目な時とほかつと忘れる時とのある爲めでせう。』

『それを可成眞劍になれるやうの方法ではありますまいか。』

『さしせまつた問題から廻避せぬやうにするがよいと思ひます。』

『もし自分にさうした問題のないときは。』

『人の問題をもらふがよろしい。』

『どうしてもらひますか。』

『少し極端なやうですが。人の問題を我問題とするやうな態度をとるがよろしい。私などが背水の陣を布かせてもらうて、奉仕させてもらふ身と發表したやうな（回避せぬ爲めにおのづから）（決して已れに力あるものとは思はずに、已れの罪の懺悔として）形になつてから、毎日怠れぬやうにさせてもらひました。「出世顏」といふ諺があります、「そばや」と看板を出せばそばを作るを忘れるわけにはまゐりますまい。』

『やゝ了解いたしました。無相遊歩と懺悔奉仕とはどうちがひますか。』

『同じことです。『光』の當體より見れば即自分が無我になつていれば無相遊歩です。何をしているとも思はないのですから。即自分がするのでなく。『光』自體がさせているまた自體それが遊歩しているのでありますから。同じ狀態を人間即我ありとする立場からは懺悔奉仕と云ふのです。我と意識しているならば是非に極度の謙遜を以ていねばなりませぬから。』

『ありがたう。序にすみませぬが。一通りと仰言つたことについて伺へるならば、どうぞ。』

『本來仕事によしあしがないといふ境涯から申せば我が執着我が要求又は我が慾心などよりするにあらで他よりさせられる、又は他の爲め一切の爲めなりと自覺してする事ならば、仕事は何しても差支がありますまい。昔しかうしたことで獰惡な强盜のうちに入り込み菩薩行をしたといふ事もありますから。又維摩經には或は婬女となつてとまであり。又、南泉は猫の首を斬つたこともありますから、併しこれらの事は十分の上に十分な越格非凡の人にして出來且

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

云へる事でありますから。通例は矢張、仕事に正邪善惡を判ける必要がありますのと思ひます。されば仕事の選擇が必要となる道理です。』

『若しさうとすれば、その選擇は容易でありませぬやうですが。』

『さうです。容易でありませぬ。けれども、それはせねばならぬことであります。今世界中が喧ましく研究していますのも、要はその仕事のよしあしを選擇するのと、どういふ方法がよいかと云ふことであります。それを専ら研究し且證明するはたらきを、私共は宣光社といふ方でやつているのであります。』

『その方は容易でありませぬから、何れゆつくり宣光社の機關を通じて伺ひたいと思ひますが、とりあへず伺ひたいのは、私の今の生活はよいかわるいかといふことです。實は私は原稿生活者です。併し其原稿は全く修養的のものですが、それは果してよしあしの何れに屬しますでう。』

『これは單刀直入の御尋ねで、少々私も閉口いたします。私は到底不徳ですまた原稿生活をしたことがありませぬ、からして御遠慮申します。』

『でもどうぞ、私は決してどのやうな事を仰言つて下さつても、少しも先生に理屈で反抗するやうな事はいたしませぬ、又何等の不愉快も起しませぬ。疑問になつて居りますことをそのまゝにして歸つては一燈園まできた所詮がありませぬから。』

『でも私は……矢張おゆるしを願ひます。』

『でもどうぞ是非！』

『では、かうしたことだけは申せるでせう。疑問になつておいでなら、それはまだ正しくない證據であるとはいへましやう。うたがへるのは問題になるからです。問題になるのは、ほんとに落付くほどになつていないからであります。併し少しのうたがひもないまでになつて往く事は屹度出來ます。それは、その原稿生活といふ事よりはその原稿生活をする內外の種々の動機及關係によつて分れてくるのであります。原稿生活より懺悔奉仕といふ様に考へてはよろしくありませぬ。懺悔奉仕で原稿生活が出來ますから。唯玆に、むしろ今一燈園の奉仕が、あちらの掃除こちらの使ひといふ風に、修養上何等の價値もないやうな仕事をするよりは、大論文でも書く方が立派でありさうなと思ふ躓きをなくする爲に、低級な仕事も大論文に劣らぬ（やり方によれば）といふことを申添へるが適當かと思ひます。それは關山國師などが唯草むしりの樣な事をしてゐられて廣長舌にまさる命根を深く植付けられた事などを参考にすればよいかと思ひます。兎に角どちらでも眞劍であらねばなりませぬ。私は重ねて又の機會に、よく承りたいと思ひます。』

眞面目な青年は歸られた。私は自から自分も口の人になつているのを恐ろしいと思ひました。（大正十年六月八日）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

三種の懺悔

中桐確太郎

（一）

懺悔といふ語は梵音と漢語とを取り合せて、佛教家の作られた語と聞いて居ります。いろ〳〵深き意義もあることでせうが、もしその通義を『自己の罪惡を悔ゆるの念』と解しますれば、これは何人の經驗にも存することでありませう。此經驗が、諸々の宗教に取り入れられて現はし來るいろ〳〵の姿を取調べることは、誠に有益なる研究と思ひますが、今はそこまで立入ることはできません。只一方面よりせる觀察につきて、少許り申述べ、皆樣の御批正を仰ぎたいと思ひます。

同じ觀察點より致しても、懺悔の種類はいろ〳〵に分つことが出來ると思ひますが、假りに、私は、次ぎの三つに分けて見ました。

その第一は、自己の現在の不幸災厄を以て、自己が過去に犯せる罪の結果なりとして、之を懺悔することであります。佛教を說明せる我邦古代の小說に現はれたる因果應報の物語などは多くは是でありませう。之を因果の法則に歸し、宿命天運などゝあきらむる場合もありませうが、苟くも、懺悔といふ場合には、過去の所行が只單にやりそこなひ、仕損じといふに止まらず、それが惡かりしといふことを意味してをります。その惡かりしといふことが强く、あざやかに感ぜられます時、その結果として來りし不幸災厄は、神（天、上帝）の刑罰と見做さるゝに至るでありませう。猶太人の原罪觀、神罰說などは、此の如き信念のあらはれでありませう。豫言者の方々が、いづれも、『悔改めよ』と叫ばれたのは、此懺悔を覺醒せんとせられたものでありませう。

その第二は、自己の現在の狀態が、自己の修德上の理想に達すること能はざるを慨き、之を自己の罪に歸し、之を懺悔するなどであります。使徒保羅が『われ願ふ所の善は之を行はず、反つて願はざる所の惡は之を行へり。若われ願はざる所を行ふ時は之を行ふ者は我に非ず、我に居る所の罪なり、……噫われは惱めるものなる哉』と申されたるは此種の懺悔の叫びであります。親鸞上人が罪惡深重の身と申されたるその潜在意識界のことは別として、顯在意識においては、やはり此種の懺悔かと思はれます。

右第一種の懺悔が、自己のなやみを感じ、之より脫離せんことを欲する所に生じたるものでありますが、第二種と致し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

ましたるものも、修徳の終極の理想が何れにあるにしましても、その差當りの目的が、自己の煩惱を斷滅し、生死を解脱するにありとしますならば、同じく自己の惱みより脱離せんと欲する所に生じたものと見ることができませう。故に此兩者は假りに之を、個身脱落の希望より生ずる懺悔と名けて置きませう。しかし懺悔は此等の外に、も一つを數ふることができます。即ち

その第三種といふべきは、猶如火宅の此世に充ち滿ちたる諸々の罪惡苦惱は、畢竟するに、その責、自己にありとしてその罪を負はんとする懺悔の念であります。釋尊が大悟の後その王宮に歸らず、終生、穢れたる尸衣をつけて、托鉢を行ぜられたのも、その一つのあらはれかと思はれます。基督はその十字架に、世の罪を負はれた懺悔の血を濺がれ、ゲツセマネの園の祈にも、謝罪の涙を流したまふたと信じます時、一層の難有さを感じ得られます。凡そ一派一宗の開山教祖、古今の聖者がたは何等かの形式に於て此種の懺悔を經驗せられたやうに存じますが、併しこれは聖者達にのみ限つたことではなく、多少の宗教的經驗を有するものの、それぐの程度に於て感じ得る所であると思ひます。

（二）

以上掲けました三種の懺悔を見まするに、その關係、甚だ密接であつて、相即相入してをります。今一二の點につき見ますると、前に述べました如く、第一種の懺悔の生起上の目的は自己のなやみの解脱にありとすれば、その解脱は果して如何にして得らるゝでありませう。懺悔そのものゝ功徳には罪も消えなやみも失すといふことです。眞に悔ゆることのうちには改むるといふ活きも藏されてをります。悔いて改むることなくば、解脱果してその望あるでありませうか、是れ即ち『日に悔いて懈怠なくば罪根永く拔くべし』とあり、また『悔改にかなふ果を結ぶべし』との誡めある所以でありませう。所謂る懺悔の功果とは、告白發露に伴ふ心理的結果たる安易の感に過ぎぬことも往々あるのであります。よしや如是懺悔に是迄の罪もなやみも消えうするとしましても、雲の湧くが如くに起り來る、つぎぐの罪の念ひを如何にすべき。よく之を拂ひ淨めて行くこと、是れ即ち『改むる』所以であり、修徳行道の要ある所以でありませう。第二の懺悔として掲けたるもの、もし修徳のなやみより來るせば、第一第二兩種の懺悔は、相連りて離るべからざる關係にありと申すべきでせう。

又翻つて思ふ。現在の不幸災厄を齎らすに至りし過去の罪惡、即ち第一種懺悔の根本原因たる自己の犯せし罪とは何であるが、もし惡かりし事（爲すまじき事）を爲したりといふ念が、その主なる要素なりとせば、それは第二種懺悔の原因たる自己の罪と同じきものではありますまいか。只前者は間接の認識によりて存在を信じたる自己の罪にして、後者は直接の經驗によりて知覺したる自己の罪であるの差ある丈でありま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

す。

然らば等しくなやみの原因たりし罪とは如何なるものでありませうか。神學上の説明にはいろ〳〵六ケ敷こともあるでありませうが、要するに爲すまじき事(卽ち惡)を行はしむる力及び惡行の總名に外ならぬでありませう。然らば惡とは何であるか。究竟する所、自他一體感の具體的顯彰たる――私は之を愛の活きと申してをりますが――この愛の無きことであると申したい。此事につきては別に詳しく申述ぶる機會を得たいと思ひますが、今の問題に結びつけて、簡約して申すならば、他人のなやみに同感せず、又同感しても、之を具體的に他に對して實現することを爲さゞること、是れ卽ち惡なりと申したいのであります。

もし他人(一切他)のなやみを自己のなやみと同樣に感ずることを得、而してそのなやみの原因を自己に在りとして懺悔する時、是れ卽ち第三種として揭けたるものであります。先きに第一第二兩種に屬するものは、只一個自身のなやみより解脫せんとする希望より出でたるものなるが故に、之を個身脫落の懺悔と名けましたが、之に對して第三種のものは、一切他のなやみに同じて、之より解脫せんとする祈願から出でたるものであるから、之を法界倶成の懺悔と稱することができませう。

而かも此第三種の懺悔は、他のなやみを自己のなやみと感じ、そのなやみの原因を自己にありとなす所に生ずるものでありますが、已に自己の罪を感じ、而して罪とは自他一體感を具體的に實現する能はざることに感ぜらるゝものとせば、心理上の過程に於て、前二者の懺悔と同じきものであるといふことが出來ませう。而してまた、第一第二兩種の懺悔も、その差當りの目的は個身の解脫に存しますが、その根本に潜在する原因は、やはり自他一體感の實現難に存すと致しますならば、此兩者はその根底に於て、第三種の懺悔と相通ずるものありといふことが出來ませう。また見樣によりては、此等個身脫落の懺悔は、法界倶成の懺悔に歸趣するものともいふべく、又はその不完全なる顯現に外ならずともいふことも出來ませう。要するに三種の懺悔、其歸一なりと謂ふべきであります。

(三)

三種懺悔の關係、大略上述の如くでありますが故に、凡そ懺悔の念を有するほどの者は、何れも法界倶成の懺悔を憧憬し、又此の體驗に參することも能ふのであります。

人或は問ふでありませう。自己の犯せる罪惡に對して責を感ずるのは當然のことであるが、他人の罪惡、及びその結果たるなやみをまで自己の責任とするは、少しくをかしいではないか、と。是も一應、尤もと思ひますが、併し考へやうによりては、必ずしも、わからぬことでないとも思ひます。

抑も、他人のなやみに同感同情する所以は何處にございませう。これは自と他とは本來一體なるものであるかゝと解

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

繹して始めて明かになり得ることゝ思ひます。自他本來一體ならば、他人の罪惡は卽ち自己の罪惡で、之に責任を感ずるは當然でございませう。先に第一種の懺悔は、現在の不幸災厄を以て、過去に犯せる自己の罪惡の結果として信ずる所より起るものと申しましたが、もし此信がいゝかげんのことでなく、**事實に根據を有するものならば、やはり第三種懺悔の**場合と同一根據に立つものなりといふことが能きませう。(但し第一種の場合は自他一體感を經ての自ではなく、個身の自己といふことに着してをります。しかし過去の自己は現在の自己と意識の上の聯絡を絕つてをるのでありますから、之を他人といふても差支はありますまい。之を同一なる個身の輪廻轉生となしたるは責任感をあざやかにする爲に外ならぬと思ひます。猶太人の原罪觀は輪廻說を遺傳說にかへて、一層領解し易からしめたるまでであリませう。)卽ち第一種の場合は、縱(たて)に於ける自他一體感を根據とするものであるといふならば、第三種の場合は、橫の、寧ろ縱と橫とを合せたる自他一體感を根據とするものなりといふことが能きませう。

然しながら、此の如き理論は何れにしましても、第三種の懺悔が實際上存在することは事實であります。昔し或二人の者が、相爭うて是非の判決を訴へ出でたさうですが、その裁判官が、德高き人なりしが爲に、相爭へる人達は、俄かに相慚ぢて其訴訟を引き下けたといふことです。もし之を逆にして、德高き人が、其面前に於て、ますます其爭ひを逞うせるのを見ましたならば、さぞ、その德の足らざることを感じ、心に慚愧の念をいだくでありませう。而して慚愧の念は懺悔に至る第一步なること申すまでもありません。我々に致しましても、自分の同鄕、同窓、または同家の者に、善からぬ人の出でしを見聞きしました時、氣恥づかしく思ふことがあります。**これには複雜なる色々の理由が加はるにしましても、**その根據は高德なる裁判官の場合と同一でございます。

かく申しますならば、それは自分の高德を傲らんとする意識に出づるものであつて、一種の虛榮心、または誇大妄想ともいふべきであるといふ非難が來るかも知れません。人には斯る虛傲の心も存することでありますから、此非難も一應尤もと存じますが、他人の罪惡によりて傲慢心を冒され、虛榮心を毀けられたる場合には、その人は一種の憤怒の情を惹起すものであります。故に前述の如き場合に於ても、人に虛傲心の滅びざる限り、かゝる怒りの情の加はるは止むを得ぬことでありませうが、併しまた此の外に、一種の慚愧、進みては責任の感が起り來ることがあり、而してその感情は、自他一體感(卽ち愛)が大なるに從ひて、痛切を加ふるものなることは疑ふべからざる心理上の事實と思ひます。而して所謂、法界倶成の懺悔とは之を擴充したるものに外ならぬのであります。

(四)

私共の祈願に懺悔奉仕といふことがあります。此懺悔は法

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

界倶成の懺悔でありたいと思ひ、またそれであるべき筈と感じます。あるべき筈(ought to)といふ感が切實なるものであるならば、そは爲し能ふ(can do)ことであります。

但し法界倶成の懺悔の如きは、或る心境より溢れ出でたるものであつて、形により之を模すべきではありますまい。然しながら同一の心境に達せんとせば、しばらく此の懺悔より出づる行履の形式に從ひて、機縁の醇熟するを待つべきであります。これは凡て學ぶ者の取るべき一つの道でありませう。併しながら形式は要するに形式であつて、生命のないことが多い。その形式に誇りを感ずるやうになつては、これ既に囚はれたるものであります。これはお互に反省自督せねばならぬことでありませう。

夜半の水音

靈逸

小夜ふけと成る背戸川の水音をききつつひとり坐り吾が居り

さよふけて仕事終れば面影に今日も立つかもふるさとの母

みちのくに住むべくなりてひととせは早もすぎたり日のたつ早さ

ある時は地圖をながめてふるさとの國は遠しともふことのあり

共に來し友よき人はかへるかもみやこに待てる妻子がもとに

みちのくに住むは寂しくあらぬにはあられど住まむえにしある間は

えにしあらば友よき人よまた來ませ吾れは送らむ寂しけれども

えにしあらば吾がよき人よまた來ませみちのくにべは寂しけれども

みちのくに遠く來りて日をふるによき人知りて住めるしたしさ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

社會改造の準備

――ホブソン氏のナショナル・ギルヅの簡單な紹介――

藤井悌

エス・ジー・ホブソン氏の名著『ナショナル・ギルヅ――賃金制度全廢に關する研究』は、或る意味に於て現今イギリスの勞働運動の主潮をなしてゐるところの、ギルド・ソーシャリズムの代表的文献の一つである。此の書は既に我國の讀書界にもかなり廣く知られてをり、殊に最近井箆節三氏の譯書も現れたことであるから、今更事新らしく之を紹介するのは蛇足の嫌ひがないでもない。然し私も、嘗て此の書に示された意見に深い興味を持つて其の飜譯を企てたことがあり、其の際序文のつもりで書いて置いたのが本篇であるので、今となつては出し遲れの聊か氣恥かしくはあるが、なほ多少の未練が殘つてゐる。

　私自身はギルド社會主義者ではない。私は社會改造の急迫せる必要に打たれることに於て何人の後へにも落つるものではないが、改造された社會狀態といふものに就いて何等具體的のユトーピヤを持たない。たゞ私は形よりも心、量よりも質の改造により強き關心を有する點に於て、たまたまギルドメンの主張の中に多くの示唆を見出し共鳴を感ずるものである。これが遲蒔きながらこの紹介を敢てする所以である。

一

　ギルドは通例『組合』と譯されてゐるけれども、『パートナーシツプ』と混同されて面白くない。原語のまゝで呼ぶ方が宜い。原語は『同業者が互助の目的で組織した社團又は協會』の意なりとあつて、かゝる團體はイギリスなどでは古く十二世紀の頃から存在してゐたと謂はれる。近代の共濟會及び勞働組合は、この昔からのギルドに似た職分を持つてはゐるがその孰れにも勞働獨占(レーバー・モノポリー)が伴なつてゐない。本書の著者は勞働獨占を賃金制度全廢の先決條件と看なして、次のやうに說いてゐる。曰く、賃金制度は國家社會主義によつて全廢されることはできない。またサンディカリズムはトレード・ユーニオンの歸趨であらうが、これとても此の目的には副ひ得ない。人間本然の性情に最も適する『ギ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

ルド』こそ、その唯一の手段であると。つまり此の著者の意味するところは、昔のギルドの長所を採つて今日の社會に適應せしめ、これに依つてイギリス勞働黨の誤つた行き方を矯め、また勞働者の注意を政治から引き離し、彼等をして經濟的實力を獲得せしめんことを期するにある。

元來『ギルド』の語はアングロ・サクソン語の『ゲギルド』(gegild) から來たもので、この『ゲギルド』には『ギルダン』(gildan)即ち『ペイ』(pay――俸給)の意味がある。著者の考に依れば此の俸給こそ勞働者も亦た之を受くべきであつて、賃金(ウエージ)は其の受くべからざるものである。賃金は勞働と共に勞働者の身を賣つて得たものである。軍人は遊んでゐる時間にも報酬を受ける。時間を限つて自由を賣るのは俸給取りではなくて、賃金奴隷である。賃金で『勞働は賣らぬ』といふ團結が作られれば、壟斷者は今までのやうに賃金と生産高との差から、使用料と利子と利潤とを産み出すことができなくなる。勞働者の唯一の財産たる勞働は斯くして『ギルド』の獨占するところとなり、これに依つて壟斷階級を一擧にして仆すことができる。――かう云ふのが著者の主張である。

ストライキやサボタージユは今日の制度の下で幾度やつても無效である。前者の有效期間は僅かにストライキ給で罷業者の衣食を支へ得る期間に限られてをり、後者に至つては同類相食むの結果に陷るのである。孰れにしても、こんな事に

莫大の犧牲を拂ふのは賢明でない。その金を貯へて勞働獨占の機會を早める工夫をするのが肝要である。

二

第一に起り易いギルドは教員の其れであつて、次には醫師のが久しからずして實現されるであらう。續いて最も早いところは鐵道從業員のギルドであると思はれる。とにかく何かの形式で何かの奉仕の獨占ができれば、こゝに壟斷の途は杜絶され、久しく衰へてゐた『忠義心』なるものも再び發現してくる。

君の馬前に討死にする氣は、被壟斷的意識からは生じない。それは共同の大義名分(Cause)からのみ生ずる。人類の平等自由及び共存といふ大義名分がなくては、最高の團體的精神は發生するものでない。强國たらんことを欲するものは、この民心糾合の要訣を心得なければならぬ。忠義の强要は奴隷制度時代の遺風である。

これは一國産業の上から言つても同樣である。大量生産の時代となつてから生産品の品質は次第に低下した。これを向上せしめて世界に於ける品質競爭上の優勝國とならうとするには、先づ一國の傭主階級の品質を向上せしめなければならぬ。今日の傭主はいつでも競爭値段で勞働を買ふことができるのであるから、いかに低劣な人間でも金さへあれば傭主になれる。そこで彼等の頭は改造される機會がなく、その造り出す品物の質もだん／＼荒んでゆく。今後も競爭賃金……

勞働を賣らないといふ團結が作られれば、優良の傭主のみ獨り優良の勞働者を傭ひ入れることができ、品質劣等の傭主は少くとも大工業からは排斥される。玆に於てか生産品の質的改良もまた期し得べく、其の國の世界市場に於ける優越もおのづから實現されるであらう。

三

著者は自ら國家主義者だとは表白してゐない。然し斯う考へてゐるらしい。――ギルド組織は國家を破壞することなしに運んで行ける、否な國家制度に一歩を進めたものがギルド制度である。かの官僚制度は事務處辨法の最高形式であつて其の大體の組織を服從（サボーディネーション）から組合式（パートナーシップ）に變へさへすれば、それが軈てギルドである。トレード●ユーニオンに就いてもまた同樣のことが言へると。

然し吾人はさう呑氣に考へる譯にいかない。蓋しギルド制度と國家主義の制度とは全く異なつた氣分で經營されるものである。『現代人』が破壞されなければ、中世時代のギルドは如何なる變形の下にも眞の意味に於ては復活し得ない。今日の社會の發達を正當なものと信ずる人は、その人生觀を一變してかゝらない限りギルドを歡迎することはできないであらう。今後教化の力に依つて新しい理想が浸み透るまでには、ギルドは產みの苦みを經驗しなければならない。

現代人は量を以て滿足してゐる。彼等は自動車や飛行機の速力と、味も匂もない品物を狂氣のやうに大仕掛に造り出すことゝで滿足してゐる。吾人の望むものは質の上に於て改良された、品のいゝ住心地のいゝ世の中である。

中世時代には今日のやうな經濟上の促迫はなかつたが、當時の人は多くの立派な寺院も建て見事な器具も造つた。斯かる成績は利得の競爭を技藝の競爭に、生存競爭を奉仕の競爭に振り換へることができて、始めて見ることを得べきものである。中世時代の徒弟が何處へ行つても自分の好む技藝を研くことができ、また其の工人だちが自分の屬する都市を壯麗にするために競うて腕を揮うことができたのは、羨ましいことである。現代人は教育に莫大な金をかけながら、この昔のやうな技藝的獲得の便宜を講ぜんとして能はざるは、まことに一の悲劇である。

人生を量的に觀て滿足する人が、吾人の質的改良に贊成するまでには、まだ多くの時日を要するであらう。吾人は其れが待てないほど性急ではない――單に焦燥の不快から免れんがために、明確な目當なしに民衆の血を賭けようとは思はない。然し一步一步と、淸新な人生觀の方へ同胞を誘うて行かうとするのは、必ずしも僭越の沙汰ではなからうと思ふ。

今後の革命は政治的でなく倫理的であり審美的であるべしとなす著者の意見には、吾人は少くとも今のところ同感である。然し質的改造の實現方法に就いては、尚ほ大いに考ふべきものが殘つてゐる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

四

泰西諸國には昔時『ギルド』があり今日『ユーニオン』がある。ともかくも後者を材料として前者を復活させるのはさまで困難なことでない。また隣邦支那にも公所あり會館あり其の複雑なる商業慣習は久しい間に種々の組合的便法を工夫し出してをる、これを模様更へして泰西風のギルドにするのも、また大して面倒ではなささうである。然るに日本にはまだ其れほど組織だつた組合がない（我國にも鎌倉時代からあつたと考へられるところの『座』、江戸時代に盛に起つた『組』の如き、ギルドに似た組織もあるにはあるが、色々の意味に於て後者とは異なつてゐて、新しいギルド制度を作る上に何等の力をも供し得ない。またユーニオンの發達が現に極めて低度であることは殊更述べるまでもあるまい）。それゆゑ日本でギルドを作るとすれば、其れは全く新しい試みである。どこからどう始めるかも未だ問題にさへなり得ないのである。『ギルド』實現の困難は我に於て他に幾層倍であるか分らない。

然しながら、最近ドイツの改造運動がギルド社會主義の過渡期的の各タイプの發展を促進したことは、我國のギルドメンに取つても其の意を強からしむるものがあらう。

ドイツに於てギルド運動が盛んになつたのは四五年此方のことである。一九一七年から一八年にかけて、ギルド制度に根帶した帝國改造案を以て名を馳せた人にヴァルテル・ラーテナウ（Walther Rathenau）がある。彼の意見に依れば、小店や旅屋や地方相手の生産業などの如き小規模の事業に就いては、戰時中に發達した地方的社會化を引續き擴張して之を地方當局の統制下に置き、同時に其の管理人には成るべく自由の行動を取らせるが宜い。然し大規模の事業に就いては、現に大に擴張されてゐるところのシンディケート式の組織を更に發展せしめて、全國の大生産業が總て數群の聯合團體に取り纏められるやうにし――例へば甲群を製鐵業、乙群を化學工業、丙群を綿絲業といふ如くに――、此等の各群の成員たる自治的單位團體にはそれ〲一定の生産上の義務を負はせると共に、之に加入しない企業は之を閉鎖するか又は買收すべし。そして國家は此等の各群卽ち各聯合に多大の權能を授けて、物價の決定及び事業の全規制を行ふことを許し、其の代りに、現在の株主に對して一定の制限内の配當をなした殘餘の利益は、其の一部を割いて國家に献納せしめるが宜い。これに依つて國庫は充實し、租税は減じ、社會改良の諸施設は行はれ、また無用の競爭と勞力とを省くことを得て收入は增し小賣値段は下るであらう。

次に南ドイツの著名な實業家で民主黨員たるヴィルヘルムフエルショーフエン（Wilhelm Verschofen）も盛にギルド社會主義を唱道してゐるが、其の案は右のラーテナウ案よりも一層現實的であると謂へる、なぜなら其れは先般の革命以來實際に行はれてゐるから。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

彼の考に依れば、凡そ商賣は其道の專門家が規制すべきものである。現代産業の複雜な問題を一々處理して行けるやうな有力な機關を有する政府は、どんなデモクラシーの國にも有り得ない。そんな働きはシンディケートの大規模なもののみが爲し得るのである。ドイツは地理的にも聯邦に分れてゐるが、經濟上にも各産業毎に聯合體を作つて之に自治を許すが宜い。そして勞働者と企業者とは各産業內の議會で双方共に表決權を有するものとすべきである。

彼はまた、全國の教育系統をもギルド組織に依つて規制すべしと論じ、教育は教育で一つの自治體を形成して他の部門の自治體と聯結すべき旨を主張してゐる。そして此の自治體の內部に於ける表決權は總ての教員及び教育關係事務の當局者、學生の父兄、並びに十四歳以上の學生全部に之を持たせ、各學校から政府と協力する中央教育議會に代表者を送るやうにすべしと說いてゐる。

五

實際の施設としては、革命後のドイツには産業協議會(Betriebsrat)が强制的に設置されてゐる。これは人の知る通り被傭者側の代表者のみから成り立つ組織であつて、被傭者をして傭主と同等の資格を以て之と雇傭條件に就き協議せしめ、進んで企業經營にも參與せしめんことを目的とするものである。其の歸趨するところが勞働獨占——産業自治の方向にあることは否み難いであらう。イギリスの工場委員會は勞資双方の代表者を以て組織するを原則としてゐるが、この制度はトレード・ユーニオンと其の消長を共にするものであつて、かの有名なホイトレー案の如きも、ユーニオンの發達の著しい事業に限り工場委員會の設置を勸奬するの方針を採つてゐるのである。それゆゑ工場委員會の有效な働きとユーニオンに依る勞働獨占とは相俟つべきものであつて、これ亦た産業自治への道程であると見得ないことはなからう。

吾人は如何なる場合にも現實の事相に眼をふさいではならない。好むと好まないとに拘はらず大勢は遂に大勢である。大衆の力の推し進むところ、思想が之に對して何物かを加へ得るのはやはり思想の方面だけである。一定の社會形態は盲目的の力を以て浮びあがる、其の形態を變へることは何人の熱狂的昂奮を以てしても不可能である。たゞ此の新らしい形態に移りゆく道程に於て、摩擦軋轢をいやが上に大きくするか、できるだけ節約するか、また此の新らしい形態を運用するところの精神をより善くするかより惡くするか、この間にだけは尙ほ少からず誘導の餘地が殘されてゐる。而して準備を缺ける改造は其の道程に於て餘りに犧牲多く、また其の結果に於て當初の理想を裏切るの危險少しとしない。大衆が障礙なしに團體的訓練を受け、新組織の支配者たるに堪ふるの德性と能力とを鍛へあげて、自發的に改善の工夫を講じ確かな足どりで行進するに至るべき機運を作るこそ、有識者及び爲政者の最も大切な任務であらう。我國に於て社會改造の問

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

題に當面する者は決して浮々した氣持で居るべきでない。あらゆる階級に人類共存の大義名分を浸みこませると同時に、共存の法則を運用する上に心要なる經驗を十分に與へるやう努力すべきである。吾人は種子を蒔く前に先づ畑を拵へることを忘れてはならない。

六

改造運動に必要なる團體的訓練に就ては、事時事に亘るの嫌ひがあり、本誌に於て論議するを適當としない。爰では改造の精神的基礎に僅かばかり言及して此の稿を終へようと思ふ。

前に吾人は人類の平等、自由及び共存といふことにちよつと觸れて置いた。惟ふに平等とは我も人なり彼も人なりの觀念に外ならない、言ひ換へれば生存に關する一切の要求權の根據を單に『人たるの存在』其物の上のみに置いて、其の他のあらゆる條件を顧みないことから出發する觀念である。かゝる觀念が一の客觀的命題として存在することは何人も之を怪まないが、さて現前の實踐上の問題として見るとき、いかにして主觀的にも之を是認し得るか。それは畢竟ずるに隣人を愛するといふ端的の情に依るの外はない。そしてこの愛の究極の原理は即ち自他一體觀にある。

自由は各人本具の成長發展の意志を平等の原理の埒内に於て最大限度に認めんとするの觀念でなければならぬ。平等に即して自由を見るとき、『己れの欲するところ之を人に施せ』

といふ古い道徳的標語が活きてくる。即ち平等は自由の發現に對する唯一の羈絆であり、自由は平等なる要求權の最も根本的なる内容であらねばならぬ。この兩者の融合點に共存の法則は存してゐる。

既に自他一體觀の上に立つとき、小我に固着した權力乃至優越の地位はすべて無意味のものとならざるを得ない。共同生活に必要な一切の行爲は何人かがしなければならぬと同時に、また何人がしても差支へない。こゝでは全體のために擧げ得る能率をさへ考へれば宜いのである。そして人の好まず又は敢てし得ない行爲は、先づ此の自他一體觀に目醒めた人が之を受持つ外はない。こゝに『下座を行ずる』の意義がありまた『諸々の地獄に入る』の理由がある。

改造運動の途上に横はる一の悲むべき障碍は、現在の特權階級を仆すことに依つて自ら之に取つて代らんとする我執、一の壟斷を排除すると共に新たに別の壟斷を打ち建てようとする貪着である。資本主義的制度の下に於ていやが上に强められ擴められた此の根性は、まづ制度を破壞してかゝらなければ拔き去ることができないものであらうか、制度の形式だけは改めても、この根性の拔けない限り人類は少しもより幸福にはなり得ないものであらうか。少くとも實際運動と並んで精神運動の進行すべき可能と必要とが十分にあると信ずる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

對話 その二

松下吉衛

T。資本にも相當の利子をつけ、企業家にも相當の利潤を拂ひ、又勞働者の保健生活を保證すると共に消費者の利益を考慮して許す限り低廉な良品を市場に供給することにする。そして商人も相當の口錢より取らないのだね。

K。あなたが此度お目論見の會社というのわ、つまりそうした行き方の實物教訓(オブヂエクトレツソン)を示そうとなさるのですか?

T。まあ、そのつもりさ。

K。相當の利子とか相當の、潤とかいうお言葉でしたが、一體相當とわ何を標準にして算出なさるおつもりです?

T。具體的にハツキリ言われないが、種々な社會事狀を綜合して見て、そこわ常識でいく外ないと思う。

K。勞働者の保健生存を保證するということも、實際問題になると私等の經驗でね、中々なまやさしいことで出來ないようです。心持ち賃銀を上げても、すぐ生活費に影響して來ますし、すると、賣りえ掛つて「相當の口錢」などと上品にかまえて居られなくなります。人間として非常に悲しい事ですが、生産を人間らしく運んで行きますと、販賣が骨が折れて勢い掛引き、だまし合ひ、奪い合いと言う結果にならざるを得ません。

T。すると、君の御意見というのわ?

K。いゝえ、意見という意見もないのですが、自分自身に製造販賣業を營んで見、又廣く社會の經濟現象から、ひいて政治の實際を觀察いたしますのに、とてもこのまゝでわだめだという氣が此頃とりわけ強くなつて來て居るのです。今も、もう、一つ一つ工場制改善策とか商業改善論とかを云々している時機でないような氣がいたします。商業が存續する限り、財物に價格ある限り、勞働までが「腐れ易き卵」のような商品扱されている限り、世に相當な價格だのといふことわ一時的部分的の外あり得ますまい。

T。大分きついな。財物に價格があつては、どうしていけないかね?

K。一體、價格というものは合理的にきめられるものでしょうか?ある製品の原料の價格、原料生産者の生活費、その生活資料の價格……と還元的に考えて行き、これに金融事情貿易關係等を計算の中に入れますと、需要供給の公式も正しいものとしておいそれとわ受け取りにくいと思ひます。所信のまゝを申しますなら、「愛」(自他一體感の發動)が失せた時、價格(交換價値)が生じた、と外、説明のしようがありますまい。ですから、「價格の否定」まで徹底しないことには、ほんとうのものが出て來ないと感ぜられるのです。

T。君の說わ理想としてわ一々うなづかれるが、こういう經

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

濟組織の裡にあつて、そんな風な生活が果してどの程度まで可能かね？自分のはたらきも、そうなると、價格に上すことが出來なくなるわけだが。……

K。お言葉の經濟組織のことゝ如何な關係になつて行くものかわ、まだ研究の餘地があるようですが、價格否定の生活つまり自分のはたらきを金錢に上さんで、美つぱに養われている事實わあります。一燈園同人の生活もこれだと思います。京大のK博士も一時「俸給を取ることわ罪悪だ」とキツパリ學生に明言したことがあるそうです。

T。すると、僕等の立場わ、なくもがなだと云うことになるんだね、餘り微温的で。

K。いゝえ。やはり、在欲行禪の一つのあらわれなのでしょう。

T。まあ、そう呼んどいて貰をうか。

天華香洞錄

内省自督　乞子詰

○思ふことがぎり々々でありたい。
言ふことがぎり々々でありたい。
行ふことがぎり々々でありたい。
それは『死』にはなれぬことによつてのみあり得る。

○觀音を畫くには觀音を識らねばならぬ。識るは體することである。體したものなら、それが何にあらはれても、そのまゝ藝術であり創作である。

○高價な繪畫であつても、また高價な彫刻であつても、それが必らずしも正しい尊い藝術とはいへぬ。金で價格つけられることは、或意味に於て何れも侮辱しあつてゐるのである。金で買はぬ樣に、また金で賣らぬ樣にせねばならぬ。買つて永藏するものも、賣つて贅澤な生活するものも、觀音には何の交渉もない。其の觀音はもつと實質的な方面に活躍してゐる筈である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

基督教より光へ

F子

或る時（それは私の十七の年であつたと思ふ）私の敎父が何について話した時かそれは忘れたが、こんな事を云つた。「神といつて祈らうと佛と呼んで縋らうと名は異つても結局は同じ對象なのであらう、たゞ父なる神にキリストを通じて祈らないのはそのほんとに聞入れらるゝに呼ぶべき名をあやまつてゐるのだ。キリストの名の他に救ひはない。とはいへ、ある人がたのんでも叶へてくれる事の出來ない人にたのんでゐる願ひを、ほんとに叶へてやる事の出來る人が障子のこつち側に聞いてゐて自分に直接願はれたのではなくつても叶へてやる事のある樣に、まじめな祈りは神に聞かれると思ふ。」私は其頃あまり熱中して自分の宗敎ほど確なものはないと思つてゐたのでほかの宗敎の事なんかどうでもいゝ樣な氣がして氣にも止めなかつた位である。然し今考へてみると、この言葉ははつきり私の心にのこされた、この時からすでにほんやりながらも、何故キリストの名によつて許り救はれるのか赤心を、純なたよつてゆく心を、神は嘉して誰でもを救つて下さる事はないものかといふ疑問は殆んど無自覺的にでも芽生しかけてゐたことがわかる。

二十歳の早春だつたらう、「出家と其弟子」を讀んだ、私は嬉しかつた、嬉しかつたといふよりは感激それも靜かな平和な感激を與へられた。其頃も私はしきりと敎會のために働かうといふ熱心をもつてゐたので、勿論基督敎びいきで讀んで嬉しかつた方が多かつたことは確であるけれども、それでも他に有難くみんな抱きあへる樣なよろこびを感じた。こんな感じを受けた初めであつた。これでは佛敎でだつて救はれるのだらうといふ考へが疑を持ちながらも深くなつた。親鸞上人の最期の言葉「みんな佛樣の子ぢや、みんな救はれて居るのぢや」それが強く〳〵心の底にくひ込んでしまつたのである。時々私はこの言葉を思ひ出しては救ひについて今までのまゝではない考へ方をぼんやりながら持つ樣になつたが、矢張り私は基督敎に落付いてゐるからいゝでないかといふ考へ方が勝つてつきつめて考へて見なかつた。（考へると言つては知識のもてあそびを表す語にしかならないかも知れないが。）

其頃の事だつた、法然上人の法語を和文で敎はつた、そしてその學期の中桐先生の倫理試驗問題は「法然上人の法語をよみて」といふのだつた。淨土門の信仰、それは名が違ふ許

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

りで根本の救ひの問題は基督教と同じだと感じた。そしてうれしい氣持とどこやらに潜む不安――佛教によつてだつて救はれてゐる人はたくさんあらう、然しそれを信じたら唯一の信仰をおとして或は救ひをも自分は失ふのではないかと、どこかに佛教の救ひを肯定するのをたゆたふ氣持――が相半ばした。答案は聖歌三百二十三番をそのまゝに寫して、私の氣持はこの歌の氣持だ、何故基督を信じないでゐられないのか知らないけれども信じないでゐられないのだといふ事を書添へた。あの時の氣持を今もはつきり思起すが私は本氣だつた。けれども基督教だけではないかも知らんといふ小さいさゝやきが消えないでゐた。でも矢張りつきつめて考へてゆく勇氣はなく、折角安心してゐられるのに、まあいゝから本氣に信心さへすれば救はれやうと一途に思ひつめてゐた。私は、自分がすくはれたといふ一種の利己心がうごいてゐる事にはあまり氣がつかなかつた。

今になつて氣づく、私のキリスト教信仰は全く他力であるべきのが隨分自力のまじつたものであつたことを。神に近づきたいからと、隨分聖書もよんだ、刺激になりさうな事は何でもさせていたゞいた。日曜學校、司會、ギルド（教會の仕事を手傳ふ少團體）の仕事、何でもしてみた。ことにギルドの仕事は私がゐないでは皆困るだらうと人も思つたらうし自分すらさう思ふほど一心にしてゐた、今思へばその高ぶりが恥しい。ゼロの方から考へたら數にすぎなかつた、小さい數だつた。然し私には絶えず不安がつきまとつてゐた。神に近づいてゐない、救はれてゐるのかゐないのか、とそんな事を考へるとなほさら救はれないぞと打消し／＼してゐたが、それでもあせつて／＼ゐたのである。あまり刺戟を求める心が強いので時には刺戟なしで信仰をもやしてゆく事の出來ないものか、どうもほんとの信仰に落付いたらばそれはなくてもいゝのではあるまいかと一層自分の足らなさにあせり出した。基督教にぽつちりでも疑がわきさうになると何時もかう思つて強ひて（今思へば）落付いた「大なる存在は私如き小さいものがとやかくいつても動かされる事のないものだ、自分に信じられる樣なものなら信じる價値はなくなるかもしれない、信じられないところを信じるのが信仰だ。」私は迷信といふほどまで、すべての事をそのまゝ承認した。今私は思ふ、これも今暫くの間だけさう思ふのかも知れないが……私のやうなものがとやかくいつたつて變らぬものは、名によつて左右される事もなからう、何も一つの名に執着しなくてならないといふ事はあるまい、執着を離れ純なあらそはぬ心持を一途に祈りに澄切らせて合掌したら、ほんとにあるものを拜しふれてゆく事にはなるまいかと。

聖公會に屬してゐる私は聖公會は基督教會のうちで最もたしかな使徒から繼承した派だと教へこまれてゐた。そしてそのサクラメントも最も正しく行はれるものであつて、宗教改革の時に繼承權を失つた新教各派のサクラメントは本質に於

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

てそれほど正しくはないと敎へられそのまゝ信じてゐた。信仰の初めにこそ自分は一番たしかな舟に乘つてゐるのだと安心してゐられたけれど、年を經るに從つてそれ許りで滿足は出來なくなつて來た。こんな事を時々思つた、甲の宗派に初めから屬してゐるものは自分の屬する宗派ほど正しいものはないと信じてゐるやう、乙の宗派に屬する者も丙のに屬するものもさう思つてゐることだらう、さうすると結局はいくら議論してみても仕方のない事で、人の主觀はてんでに違ふのだからどこで救はれるのかと迷はないでゐられなかつた。これは全く幼ひ迷い方だつたけれどこんな經路も私にあつた。まだ主觀にたよつて信じる信仰によつて救はれるものでないことに私は氣がつかなかつたから。私の宗派にたいする疑はひいては宗教の種類そのものに關するものと必然的になつて來たのである。宗教や宗派の分裂は私どもの圓滿にすべての人に對して抱かうとする愛をも妨げやすく純眞な愛をもたうと願ふ度にあはれみから起る傳道心といつた樣なものが純をにごらしてゆく事に次第に氣づいて來た。名をはなれてすべての宗教の仰いでゆく神とか佛とかいふものゝ本體だけをひたすらに拜して行つてはいけないものかといふ問が次第にはつきり頭をもたげて來た。審くなかれといひながら宗教の名そのものすら他を審いてゐるのでないかと思はずに居られなくなつた。

　去年の秋ふとした事から急に私は突然夢のさめた樣に自分の信仰が果してゆるぎないものか如何かといふ事をつきつめて考へ初めた。さうして今までは自分と自分に甘へてゐた、といふ事に氣がついた。「神を知つたと思つてゐた」といふ、よく有島さんのいはれる心的經驗に遂々私も打突つたのであつた。願はくはさうでありたくない、出來るならそつとしておきたいほど恐ろしい發見ではあつたけれど。急に今迄神と自分との間をつないでゐたと思つてゐたつなかなくなつて、新しくたしかなものを見付けるまで神と自分とは二つの對立になつてしまつた樣に感じて堪らなく淋しかつた。自分が儘でないとを知つた以上今までやつてゐた仕事の土臺がぐらついて司會なんかする氣になれなくなつて片端からお斷りばかり周圍の人々は私の急に變つた態度にびつくりなすつたらう。今まで私が持こたへてゐたのは「急に變つたらば人のつまづきになりはしないか、それよりはそのうちにはつきりしやうからつゞけて行かう」と自ら慰めて居たのだけれど、今度は本質に缺陷があるのに表面を見て人が感化されてくれるなどゝ考へるのは何といふ僭越だらう、あまり甘へて居過ぎるでないか、よしそれによつて人はほんとに救はれる事はあつても自分は救はれる事が出來ない、自分は僞善者にすぎないもの。やつぱり自分には自分より可愛いものはない自分が亡びる事には堪へられない、と考へる樣になつた。その頃の私の內部は二つに分裂して爭つて居る樣に感じた。自分をどうして伸ばしてやらうか、これ限りといふまで、殘り憾みのない

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

までに伸したいものだ、自分を押へつけて人の犧牲に許りするゐはあんまりいとしい事だといふ強いさけびと、「生きやうとするものは死に、死ぬものは生きる、十字架を負うて我に從へ」といふ暗示も又靜かな小さいさゝやきと入り代り立ち代りして私を迷はしてゐた。私はどうしても後者に引かれる方が多かつた、自分で生きやうとすればする程死のかげは明らかに目先に立つた。さすがにいくら絶望的に wild になつも私は人を傷つけてまでも自分を育てるとなるとためらつてた。社交性をもち、人と交はらねば生活してゆけない自分は、どんな人をでも傷ける事は自分を益する事にはならないといふ理屈も考へてゐた。たゞ自分は自分と人との調和のとれないのに悶えたのである。内村鑑三氏の説教を聞きに行つたのも十字架を説くといふ事だつたのでそれが聞きたさにであつた。一番あせつてゐたのは早く十字架の救ひの眞義をさとつてほんとの永生にあづかりながらゆつたりと生かしていたゞきたい事であつた。此頃から「自分のほんとのいのちの保ち方と他に對する生き方」の問題がいよ〳〵絶えず心の中に宿る事になつた。あせる様な悶える様な重苦しい氣持に耐えながら何かにぶつかるのを待ちにまつてゐた。

　二月か三月頃、私どもは再び中桐先生の自他一體説を伺つた、前よりもはつきりとくはしく。自由と愛との衝突に處して自由を犧牲にしても愛を全うする時は何時かは自由も何等かの方法で滿足させられ、たとへさせられないでも悔いる事はないが、自由を全うして愛を犧牲にしてしまふと癒す事の出來ない痛手を心に殘すといふ事、自由の滿足は happiness であるが犧牲のよろこびは blessedness であるといふ事など伺つて、自分の亂れた心には一つの筋道が立つて來た。矢張り私は心にさゝやく小さい靜かな聲に從はなければならないと思ひきめる方に傾いて來た。

　卒業試驗の前、一人の煩悶してゐる友を連れて中桐先生の紹介で天香先生に初めて御目にかゝつた。私はその時にははつきり形をなした問題は持つてゐなかつたので友に話して下さる先生の御言葉を側から伺はせて頂いた。一つ〳〵はつきりとお光に合掌しながら話される先生の態度をほんとに慕はしく思つた、ほんとに救はれた方だなといふ氣がした。その時に「手前の知惠をあてにするのはあぶないと何時も思つてゐる。自分ならぬもの圓滿な智惠にすがらせていたゞく事です、自分が行詰つた時、いくら腕ぐみして考へてゐても腕はとけない、神樣佛樣といつておすがりし合掌するときに忽然と立上る事が出來動く事が出來る樣になります、まあ信心が大切だ、因縁のある宗教によつて信心なさるがよろしいからう。」私ははじめて主觀に頼り過ぎてゐた、主觀を離されなくては救はれないと考へ初めた。まだ主觀をすてる事は幾分不安でならなかつたけれども、急がしい卒業試驗がすんで、十九日の最後の級會に天香先生に御話していたゞく事になつた先生は冒頭としてゼロの生活といふ事を話して下すつた、私

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

は久しく〳〵握りたくつても握り切れず、わけもわからずにたゞ盲探してゐたものにぴつたり出逢つた氣がした、そんな時に感じるかと思つた様な大きいショックの感激ではなく靜かな〳〵喜びに涙がわいた、あとの御話よりは、そのゼロの御話！ですつかりうるほされた、先生の御姿を見送つて泣いた、そしてそれはうれしい尊い氣持から私の全體をゆるかして流れる涙であつた。私の凡ての問題、今までのもこれからのも、これによつてこそほんとに解決されるのだといふ氣かして、久しく不安にうごいてゐた私ははじめて落付いた、なだやかな氣持になつた。その晩私は、心が妙にさわぎ初めて以來つい〳〵足がうとくなつてゐた宣教師をたづねた、この氣持を持つて行つたらどんなに叱られても靜かに受ける事が出來ると思つたので。案の定思つたよりは手きびしく聖公會をはなれた（實際は何も私ははなれるつもりでなかつたが人にはさう見えたのか知らん）ことをなじられたけれど私は何にも辯解もしなかつた。たゞゆるがぬいしづゑを見付けたよろこびが心いつぱいだつたので。然しその時に、今まで熱心だつた私が變つたので多くの人がつまづいたではないかといはれた時それが急に不安になつたので翌晩天香先生にその事をすつかりお話して御教へをこうた。先生はおつしやつた。ゼロの生活から見れば形の上で人を感化しやうとしまいとさして問題にならない位だ、よし萬一人をつまづかせたとしても、若しあなたの愛が前に赤熱であつたものならこれから後も白熱にしたら、そして他の人々を起して行つたら、赦されると信じる、必ずしも自分の倒したその人を起さねばならぬといふ事はない、さう思ふのはまだ執着するからだ、あなたは今までより一層ひろい大きい神にかへつたのならそれ丈けよくなる責任を持つてゐる事を忘れないでゐればよろしい、私がこんな事をいふ以上、責任は私も持つと。私は必ずしもたふした人を起さずともよい、と伺つて、執着にくらみ、數に迷はされた眼の開けるやうに感じた。自分がまだ〳〵自力にすがつてゐた事が次第にわかつて來た。二十四日の卒業式の午前にまた五人で伺はせていたゞいた時にはだん〳〵多くわからせていたゞき前のお話を强めていたゞいた。

いよ〳〵私は必ず基督教許りによらずとも救はれない事はないと信じる方に傾いて來た、私はたしかに救はれて居る方を見たのだもの。そしてほんとに靈肉一致した境地を知つた實生活に表はされてゆく宗教の强さを知らしていたゞいた。今まで信仰を實生活に實現して神の榮をあらはせとは耳にたこの出るほど聞かされたけれども、その實生活とは普通の生活とは根本において同じで程度のちがひだけを意味するものを指示されてゐたとしか思へない。つまり多少の奪合ひを默認したものである。なるべく上手に、人を傷けずに多くを得て多くを神のために用ひるといふ丈けの事なのであつたといふやうた氣がする。これは私の考へ違ひかも知れないけれど私に教へてくれた人々の考へはそれ以上のものでなかつた様

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

だ。私はどうしてもぶどう畑の主人が使用人にはたらいた時數にかゝはらず同じ賃銀をはらふたとへなどにわからぬ點があつたけれど、私はみじめな生活をする人を見る時などきつとそれを思出しながら自分がこうして不自由なく、否あまる様な生活をしてゐる事がすまなくなつて「自分は一人じめしてゐるのだ、どうしたら調和されるだらう」と迷つたのである。今は、一燈園の生活を知つて、あのたとへもさらりと解つて來る様に思ふ。そしてあの主人のやり方にもちつとも無理はない、無理と思ふのはこつちが奪合ふ生活になれてしまつてそれに執着するからだと知つた。私がぼんやりと、そしてそれは出來ない理想かも知れないといふおそれを抱きながら、それでもなほ心に抱いてゐた平等も無抵抗もたしかに出來るといふ確信を與へくれた。私はこれを信じる事が出來る丈けでも一生有難がつてゐてもいゝとさへ思ふ。

其上に、ある日先生の御そばで半日の御手傳ひを杉本樣でさせていたゞいた後であつた、先生は歸らうとする私におつしやつた、「――權利で得たものはまたそれ以上の權利によつてとり返されるものである、ゼロの氣持でゐて得たならばそれはとり返される事のないものであると信じる。婦人運動もよいけれども權利で權利を得てほしくない、やさしさ以上のやさしさ――たゞのやさしさ許りでは馬鹿にもされる――卽ち犠牲、十字架の道によつて勝つてほしいと思ひます。(私が婦風會の寄宿舍にゐるので一燈園の氣持と婦風會の氣持とのちがひを敎へて下すつたのである。)」私は有難かつた、今まであれほどわからないでさぐつてゐた十字架の意味がぱつと暗示される氣がした、解脫とか十字架・復活といふことばにふくまれる意味がまだ執着をすて切れない私にさへわからせられる樣に思つて、ほんとにうれしかつた、その時から、絶えず考へる、先生の御ことばの含蓄を。

久しく一神敎によつて信仰して來た私はつい近頃まで自分の已むに已まれぬほどの心のうごき、なりゆきながら、あらゆる宗敎の求める根本の一つのもの、お光を信じる丈けではいゝのかしらといふ樣な不安につきまとはれて、時にはずゐ分まどはしくなつた。でもそれはぢきにはれてゆく雲に過ぎなくなつて來た。今ではたとへキリスト敎によつて信仰をつゞけてゆくにしても、キリストの名をたよつて祈るにしてもすべてを通じてあらはれるお光による救ひを信じて安んじる事が出來るやうになつた。(出來るといつて自分でするのではないけれど)「主觀で信じるのではほんとに救はれない、さうすれば、宗敎をえらぶのも、えらんでこの宗敎が一番安全だなどゝ思ふのも結局主觀に訴へての事だ、ほんとのお光、信心は考へる餘地のないものと思へる。主觀のすてついでに、たゞお光によりすがる丈けの赤裸な子どもに歸ればいゝでないか。」といふ風に此頃は考へられる。間違つてゐたら正していたゞきたいと願つてゐる。

日に〳〵私は一燈園の生活に引きつけられてゆく、私の心

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

の要求は今すぐにでも赦された生活に入つてゆきたいのであるけれどもまだ家のさわりを整理してゐない、そのいとぐちもつけてゐない。初めはいろ〳〵の理由（それはつまらないものだが、私を引ずつてゐた、美とか藝術とかいふ事もその一つであつた）が私に園の生活をあこがれるだけにしておいてもいゝ、不二といふからにはこのまゝの生活でその氣持を持つて暮してゆけ、といつて私を引ばつたが、もう此頃はそれよりも大きい聲で新生涯に立てといはれる氣持がする。たゞ、今は時をまつてゐるのである。「お光に生かされるまゝにまづ生きてゆかう」ほんとにすなほに生きて行かせていたゞきたい。弱い私にはやつぱりまだ今のまゝの生活に引ばられるところが多くなると、たゞその方へ多く引いてゆかれる事もある事だから、いよ〳〵みちびかれてお光の方へ引ばられる時に周圍のさはりにおぢてためらはぬ様にほんとに祈らうと思ふ。決心は、あとの事など考へて見込みをつけてゐるのではほんとの決心でない、あとはどうなるかわからなくても決心するのが決心だ、とどなたかゞ書かれた。死ねば生きられると思つて死ぬのは死ぬのでないと始終伺つてゐる。さはりの山ほどある中でまづ決心してあとをお光にまかすのがほんとの死に方だと思はれるが、今の私に、まだそこまで最後の一擊を下す力が欠けてゐる、もう一息、ほんとにもう一息の事なのに……すでに淵のふちまで來てゐる、足をあげる許りになつてゐる。基督教に入る時もこれほどの決心はちつとも要求されなかつた、それだから生温かつたのかも知れない。だから、ほんとに生きてゐるのかしらといふ疑ばかり强かつたのだらう。

こうまで自分の氣持を整理してみて（整理といふほどはつきりとしてゐないが）何だか少し安心した。これからが、ほんとに死なせていたゞきたいといふ本願と、死ねば生きる證據を見たいといふよわい心とのたゝかひになるのであらうと思ふ。間違つてゐるところはお光によつてどこまでも訂していたゞきたい、若しこれで進んでよいのならお光のうちにいよ〳〵育てゝいたゞきたいと祈つて筆をおく事にする。

八月二十三日夜

あとから一筆つけ加へる。私の今ほんとに大切だと思ふことは、お光を直接に仰いてゆくやうにさせていたゞく事である。神と直接に交れるとはキリスト教においてもいつも教へられすゝめられた事である。私は天香先生に接する機會を多くいたゞいてゐる丈け、お光をぢかに仰ぎ、ぢかにふれてゆくといふ事よりも、先生を通して光るそれにたよりやすい危險を感じる。先生にとらはれたり執着してはいけない。けれどもあまりにしたはしい。お光のしたはしさありがたさを先生のしたはしさ以上に感じるところまで歩ませていたゞきたいと祈らないでゐられない。願はくはお光にたいする敬虔さ從順さと共に先生はじめすべての同人、その他の世の人にたいする愛を圓滿に發達させていたゞきたいものである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

赤城にのぼる

張谷僴一郎

朝とでのこゝちさやけし上つ毛の山へ旅ゆく新妻とわれ

五月野は光あまれし日の下に胸をひろげてつらなりゆかな

停車場の柵の外邊に沼つゞきしろがれいろに葦の葉かへる

葉櫻の蔭の歩道に人すくなし地をゆるがして汽車入り來る

この溪に椎の木多し峽ふかく巖をうがちて水流れ來も

河の瀨のやゝにひろがりざれ石にはだらはだらにたぎてるも見つ

峽の氣のかそけき冷えを觸れにつゝ家のともしき小驛に降る

赤城根の麓すそ原並木して桐の花いま盛りなりけり

黑土の上に散りしく桐の花形くづれずつつがたなせり

まなかひに山仰ぎつゝのぼる道桐の花の香ほのかに匂ふ

いさゝ川間遠にめぐる杵ひとつ持てる水車のかたはら通る

眞日照れる櫟林の長くして行けども坂の道きはまらず

杣ひとり天下るがに下りて來ぬ腰に山鉈たばさみにけり

いつしかに群山多く下にひらび高きにあるをおのづから知る

あさみどり果てはわかたず末遠みはつはつ光る渡良瀨の河

この山にのぼるとえ行くわが妻がひと房さげし藤浪の花

いくとせにへわたり戀ひてわれと妻のぼり來にける山はこの山

山の裾ゆるくし流れ天霧ふ嶺に白雲棚引きわたる

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

向つ溪ゆ低く〳〵もりとう〳〵としゝまたゆりて伐木の音す

落葉松の若芽小さし麦粒のつけるがほどに萌え出でにけり

落葉松の若芽小さく日の透きて森を明るみいはつばめ飛ぶ

新芽なす落葉松原を貫きて小さき川のせせらぎ流る

そぎたてる一つ巌なす向つ峰〔を〕の嶺を明めて躑躅花咲く

向つ峰に霧の湧くよとみるひまにたちまちくづれ横さまに流る

向つ峰に霧のゆきゝの早くして躑躅の花もながろべらなり

大き木の茂りをくらく霧こめて落つる雫の音のかそけし

繁り葉の下枝に落つる露雫たゝずみ居ればしみ〳〵かそけし

やうやくに登りすゝむに天ぎらふ山はしぐれて雨となりけり

しぶく雨のしげり葉もるゝいよゝはげし濡れそぼつわれは笠をもたなく

大き木をめぐり堙れる雨しぶき幹をつたひてむらがり騰る

これの身に落つやと思へいかづちの山震はしてとゞろきわたる

木立縫ひ稲妻裂けてたばしるに今は思ひなしひとしく目つむる

われやこれ死にすることを近く見て心おぼえず果てなく澄めり

吾妹子はちからかよはし行きなやむいはいし道をいたはりのぼる

喘ぎつゝ腹匍ひのぼる峠道忽ち盡きて湖をのぞむ

麓にて見し五月野の影もなしこゝは芝草やゝ色づくに

上つ毛の久呂保の根呂の白樺は春まだあさく新芽のかたし

霧ひくゝ山よりながれ湖の面は小雨さびしく夕暮れにけり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一宿兩餐の記

木村毅

外界からの事物の影響を直ぐに感得する人がある。よほど感受性の慧敏な、そして自己批判の早い人であらう。私は不幸にして、さう云ふ部類の人間でない。感受性が頗る鈍重に出來てゐるので、かなり大きな刺戟を與へられても、それが身心に及ほす影響感化は、大分後にならなければ解らない部類の人間である。

だから今頃になつて、十五六歳の頃讀んだ本の感化を、漸く測定する事が出來る始末である。十年前に洗禮を受けて、二年とたたない間に捨てて了つたキリスト教の感化も、昨日今日初めて胸裡に或る形を成し初めたやうだ。何の事はない若い時に受けた打撲傷が老後に及んで痛み出すのと同じやうなものである。

さうした私だから、天香さんにお目にかかつて受けた感じ「懺悔の生活」を讀んで得た印象も今俄かに纏める事は出來ぬ。一燈園生活にホンの一寸觸れて與へられた影響も亦同じ事である。

スチヴンソンがうまい事を言つてゐる。大自然は暗默の間に偉いなる感化を及ほす、けれども此れを俄かに人間の言葉に飜譯する事は出來ない――と。私が今京都の一燈園に一宿兩餐の客となつて、痛切に思ふところは此れである。

勤めてゐる社の用事が一片付きしたので、社主の神田氏と私と、それから宮崎安右衛門君を誘うて都合三人、西下の汽車に乘りこんだのは八月九日の夜であつた。翌早朝京都着、同人A氏の出迎を受けた。途中八百屋へ寄つて店に有りつたけの西瓜（と言つても十個内外であつたが）を一燈園へ屆けるやうに命じておき、私達は天香さんの托鉢先なる杉本氏邸へ旅装を解いた。

天香さんは、其の日丁度同人が皆御所へ托鉢に行くと言ふので、某氏の寄贈になる揃ひの檜笠に「一燈園」の文字を書き付けて居られた。中桐先生、S孃、それから私とは相識の間であつた。澁谷ふさをさんも見えた。寫眞を二枚撮つた。

私達は同人諸氏よりも少し後れて、托鉢先へ行つた。炎天に晒されて草を取つたり、敷いてある砂利を均らしたりした。くら／＼と眩暈のしさうな暑さにも、不平一つ言はず小唄一つ歌はず、熱心に敬虔にそして默々として仕事を勵んで居られる同人諸氏の態度からは、無言の教化を受けた。併し監督か巡視に來た役人の横風な態度は甚だ癪にさはつた。頭から拳骨を一つ見舞つてやらうかとさへ思つた。

一方には同人諸氏のやうな一途な懺悔奉仕の生活がある。一方には上に諂ひ、下に威張り、強き者にはへこたれ、弱いものは窘めてゐる鼻持ちのならない、官吏等の、所謂あたり

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

まへの生活がある。私の生活はその中間に立つ二元生活である。これが鳥からも獸からも擯斥せらるる蝙蝠の如く、甚だ不徹底なものである事は、誰よりも私が一番よく知つてゐる。一元に還らうとは思ふ。けれども純然たる俗世間の生活に入つて行く勇氣はない。されぱとて一燈園の方に徹底さすには今の私は餘りに信念が缺けてゐる。これを善い事とは思つてゐない。只止むを得ない事だと言ふ煮え切らない諦めを付けて、落ち付きのない日を送つてゐるに過ぎない。

托鉢をしながらも私は、更めて自分の二元生活を考へ直した。

托鉢は他の人達よりも早く切上げて、それから入浴、雜談午睡。夕食の御馳走になつた臨濟の精進料理は甚だうまかつた。大いにわが意を得たものであつた。

一燈園へ辿りついた時は、暮れて暫く經つてからであつた。暗で凝集して、半天の星影を掩ひながら默々として聳えてゐる山の肌を、そツと潜んで來る欝氣が、ひや／＼として誠に氣持がよかつた。夜は西瓜と餅菓子の御馳走がある、御所以外へ托鉢に行つた人の報告や感話があり、天香さんの話があり、中桐先生の話があつて、知らない間に更けた。「懺悔の生活」を讀んで劇かに各地から入園して來た人も多かつた。

翌日は他へ行き、その翌日又京都へ歸つて、夕方は「懺悔の生活」に書いてある中村屋へ行つて宣光社の御馳走になつた。とよ子さんとてい子さんに逢つた。只何となく『此の姉妹の上に祝福あれ』と言ひたいやうな氣がした。

一燈園の一宿兩餐をざつとスケツチすれば此麼ものであつたらう。まづ言つて見れば私は一燈園の匂ひに丈け觸れたのである。色に觸れ、形に觸れ、そして核心を把む迄にはまだまだ幾修養が要る。

『あまたたびの嘆息を以て神を求めよ。』

此れは梁川氏の『病間録』にある句で、私が十數年前から暗記してゐるものである。鈍根なる私はこれを自分の求道上の根本方針としてゐる。鈍根は鈍根で、又一德で、不倒翁（おきやがりこぼし）のやうに何度轉ばされても起上る元氣丈けは失はないつもりである。

天華香洞録　其の二

○偉大といふことと尊いといふこととは同じでない。豪傑と聖人とは無論別である。藝術でもうまいといふことゝ尊いといふことゝは別である如是看と見るにも見樣がある。眞の眞は同時に眞美で又眞善である。ありのまゝを見るに、ありのまゝの見るありのまゝと、人間の主觀が見るありのまゝと二つある。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一燈園だより

園は冬より夏がよい。西日は容赦なくさすが、東側の半分は光線を避けて風通しがよい。後ろには半町たらずに淺間の瀧がある。どんな盛夏の眞晝でもこゝまできては熱さを忘れぬわけにはゆかぬ。終日托鉢して夕饗をいたゞき、風呂にも入りて、夕方ぶら〳〵園へかへる心持はわるくはない。翠轡重疊として甘い空氣を湛へて待つ村の入口には辻電燈の光りの下に、村の娘か數人大道に蓆を敷いて毒打つた藁を手に手に持ち出して草鞋を作つている。奉仕して歸るとき何だか一仕事してきたと思ふている。時々此娘子軍の關所で人知れず痛棒をくらふことがあるが、兎にも角にも京の夜を後ろにして鹿ヶ谷へ歸る氣持はすが〳〵する。夏の園は冬よりよい。

人事は相かはらず順逆が多い。入園る人去園る人の上に喜悲交も現れる。園の生活はそれを超越へようとしてはいる、いつのまにやら超越へるやうなことにもなる。これは喜悲がなくなるのでない、喜悲をあつかうのに何か力を得るのである。けれどもこれには修業がいる。互に力になりあふて『光』の攝理に任せてはゐるか、相談相手のないときは淋い氣持がする。天香さんは過る一ヶ月は京都であつた。別にどれだけ話しあふといふことはなくとも、何となく心丈夫になる。當番は矢張相さんである。

谷野信曉さんはまだ歸らない。郷里で托鉢して色々の交渉があるのであろう。秋田の曙一燈園は今年夏季修養の豫定がくろうて保光さん、岩淵さんの二人は濱村さんと共に馬鈴薯でも造つていることだろう。伊藤祐之さんは父君の逝去の爲めに郷里へ歸られたが、これもあとの始末に色々お骨か折れることであらう。園の小林さんは

此頃大分繪に親しむ機會を惠まれて、佛畫をものしていられるが、繪のよしあしは別問題として自身の心持は嘗て經驗せぬよいものであるさうだ。八田さんが園に歸られたが、東京詰めとなつて往かれた。東京にも園の生活を望まれる方がある爲めに、その地均しにゆかれたのである。立山さんは松本製煉所の徒弟さんの教養係りといつたやうな仕事を引受けて製煉所詰となられたが、此人の郷里にも歸れといふ問題があつて先頃母君か親敷園の模樣を見に來られた來てさへもらへば緣になる。

『懺悔の生活』が出版されてから、めつきりと來訪者が多くなつた入園なさる方も少くない、手紙にて問合せやまた入園希望する人は隨分多い。當番で扱ひかれるのは天香さんが返事をされる。從來園には日記もない、來た人の名薄もない、唯々國の建物は一燈園生活の門である、去るものは逐はず來るものは拒まず底であつて、懺悔奉仕の態度を互ひの住家とすること、あだかも法然上人の南無阿彌陀佛のある處に互は一處であるといつた風になつてゐた。けれども『雜誌』へ報告することになると段々に日記や名簿ぐらゐは必要になる、よいかわるいかは別問題として。

『懺悔の生活』をよんでイの一番においでになつた人は、たしか大阪の實業家である松本榮藏さんといふ人であつた。豐橋から古市さん神戸から飾森さん島根から福田爲平さん等であつた。松本さんは自分の家から出來得る丈實行するとて色々相談されて歸られ、飾森さんは一週間餘り托鉢されて歸られてから色々難有い手紙をいたゞいた。福田喬平さんは今尙眞劍に托鉢してゐて下さる。

教育者では岡野さん青木さんの兩君を始めとして、信州から唐澤さん、酒井さん、大内さんの三君が遙々と入園された。何れも短き

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

は五日長きはまだ尙在園されてゐる。

宗教家としては大本教にあつて色々深い研究と體驗を重ねてゐられる谷口正治さんがきて呉れて矢張托鉢をまでして五日間程共靜され、油小路といふ眞宗の住職さんは園の同人の心持となつて、その**住職せる寺へ托鉢されてゐます。**

砂糖屋の息である武田治率さんといふのが懺悔の生活をよんで**夫阪から浴衣一枚で徒歩できてその日から托鉢をして喜んでいた翌日**兄さんが心配して呼び反しにきたり、三喜田さんといふ學生が一日托鉢して滅切り性格をかへられたり、何となく早く一度あひたいとて來園された人には少くないが一々記憶してゐない。

婦人の方では東京から、是は非常な決心にて着のみ着のまゝで飛込んで來られた本多雛子さんといふ御年配の方がある、四人程の立派な子女があつて未亡人である、令兄も立派な人、すぐに勝淳さんのあとを奉仕して杉本家にゐてくれられる、內田よし子さん、今村德子さん、戸田深雪さんなどそれ〳〵托鉢してゐて呉れられる。澁谷ふさ尾さんは相かはらず大德寺內玉林院へ托鉢されて眞劍に長養されてゐる。

來訪された方は隨分多い、中には色々尊い話しをきく、めぐまれあひである、ありがたい。

中桐さんも來園された、金光敎の催しの大阪公會堂に於ける講演を兼ねてゞある、天香さんも共に大阪行、歸られる頃、宮崎安有衞門さんの案內で東京春秋社の神田豐穗さんと木村毅さんが來られた西瓜を十ばかり供養されたは奇抜であつてうれしかつた。丁度その時分京都御所の御苑の掃除をたのまれてゐたので、東京の珍客四人も共に大勢で托鉢をした。寄附された檜笠に「光」「一燈園」と書いたのを戴いて草を掃除いた事である。晝の辨當は角谷卿子さんと澁谷さんが受持であつた、茅野さんが寫眞を撮つてくれた。

東京の至誠殿の富士めぐりに勝淳さんはいかれた、あと東京のおつれの家を托鉢される。天香さんと共に東京から來られた小此木襄治さんは休養にきたつもりがその日から托鉢をされて未だに油がの**つてゐるとの事、久振りに小此木灌沌さんも來られて二三日滯園、**

二十五日天香さんと共に東京へ歸られた。

森川さんは眞劍に托鉢していて呉れられたが、一先づ去園、あとの在園の人々皆無事なり。人が多くなると事も繁い、よいこともあるか不純になることもある。何れも深い攝理であるとして、順逆ともに『光』に近く事になるのかと思ふ。

天華香洞錄

其の三

前のは眞のありのまゝで、あとのは人のありのまゝである。人の見たありのまゝなら、いかに深刻に畫いたり又彫つたりしたとて、眞の宗教と同じ價値の藝術ではない。藝術が倫理道德の要求に應ずべきでないことは云ふまでもない。大自然から脫線した人間の主觀を弄んでの、放逸にして獨斷的なものであつてはならぬ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

返照録

●清水精一兄（大阪市外天王寺村正德洗心館）

私は昨年以來ドン底生活に入りまして少なからず尊い教へを受けました人間と云ふものは眞に行き詰りたる處の叫びには仲々力強い底力のあるものがあります私は此頃の世の中は却てドン底生活の中に眞の人間味があると思ひます私の供達である四十人の乞食は皆眞人の行ひをなす人達です私は此自然に育てられた眞人の感化を受けました事が少なくありませぬ。

私は最初最も寒い頃でした蒲團も家もない此人達に會ひまして「貴方達は蒲團もない家もないのに好く眠りますが何とも無いですか」と尋ねました處が一人の乞食の云ふのに「常人は寒いと蒲團や温爐で温めれば眠り得れぬが實に不幸な人てす私達は大地の温みと自分自身の温みや人の温みで極く安々と眠ります人間は大地の温みと人の温みを眞に解し得れば人間を話す價値がないとの事を云ひました」此言葉は眞に大哲學であり大藝術であると思ひます私は今迄私共の生活私共の歩み道の如何に「つまらぬ」ものであつたかを愧ぢます時々私は此眞人等より警告を受けて面白く時日を送つて居ります。（伊藤猛氏宛）

●平等通昭兄（東京早稻田高等學院）　西田天香様

私は今先生の「懺悔の生活」をよみ終りました。そして私は先生の尊い生き方に感激させられました。私はその感激と聖者のやうな立派な生活に對する尊敬と憧憬の念から、無禮をもかへりみず未だみぬ師に手紙をかく筆をとつたのです。

先生　　私が先生の名を知つたのはこの書をよんだ今度が初めてではありません。ずうつと以前から「西田天香」といふ言葉は私の頭にも耳にも口にも馴れた文字でありました。私は、一緒に寢起し一緒に佛前で報謝の勤行をする求道士（私は故管瀨先生の同和學園に寢起してをります）や机を並べてゐる學友（私は印度哲學を研究するため早稻田大學の高等學院にをります。そして一燈園の同人である中桐先生から親しく教授をうけてをります）との眞面目な信仰上の話の折には斷片的ではありますが先生の信仰、生き方が語られたものでした。（又、あの大本教が盛んな時でしたが、級友の一人が中桐先生にその所感をとうたことがありました。その時中桐先生は、私はすべての宗教の根底に同様の「光」をみる。各宗教の教祖はその「光」をみてその「光」を各の個性を通して表現するとき、丁度太陽の光がプリズムを通じたときのやうに光が分析され、その一つ一つが佛教となり基督教となり回教となり、そして大本教となつたのだ。私は大本教の中にもその「光」をみとめる。そして私一箇としては、その「光」を信じてゐる、と語られました。私はその漠然としてゐることを感じながらも私はその「光」の信仰に引きつけられました。その時私は勿論、その信仰が一燈園のものであるとも、中桐先生が同人であられることも知つてゐませんでしたけれど。）

そして、中でも私に先生をよく知らして下さつたのは倉田氏でした。私は「歌はぬ人」の中にでてゐる先生の逸行をよんで尊い感じにうたれました。

私は昔の十字架を負つた開山達と同じやうな生き方、托鉢にひきつけられました。今の妥協的なにえきらぬ退嬰的な開山達の生き方に最も遠い寺院生活や僧侶（私もその一人で

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

はありますけれど」をはがゆく思ひ、呪はしく思ひ淡い反感をもつ私は、先生の徹底した宗教的生活は當然それに迄高められればならぬところの懺悔奉仕の生活に止み難き尊敬と賞讃と憧憬とをもちました。

先生　そして、私は最近ある煩悶に苦しまされました。

それは人生と信仰との矛盾についてでありました。

それは信をもち、そして自分の靈の本然の願を欺瞞拒避せぬ者の一度は必ず到達する所であるかも知れません。しかし私自身にとつては「如何に生くべきか」は「何を信ずべきか」に次いでおこつた大きな惱みでありました。

「何故に罪惡をおかさずにはこの世に生きて行かれぬのか。

愛し合ふものが何故に別れねばならぬのか。

他人を傷けることなしに何故愛することができぬのか。

他の生物の命を傷けることなしに何故生きて行けぬのか。

他人を傷けることなしに何故正義眞理を行ひえぬのか。

何故に正しからぬ戰に加つて兄弟を殺さればならぬか。

姦淫をなすことなしに何故に子孫を造ることができぬのか。」

私は彌陀を信じ、彌陀に救はれ、彌陀に罪を償はれてゐるが故に、私が日々惡をなすことが苦痛でありました。

私は今の生き方—學生として父からの學資で生活し、そして今の自分の行爲が少しも隣人の益とならず、反つてそれらを傷け苦しまし重荷を負はす、を本當のものでないと思ひ出しました。

そして私は他に本當の生き方を求め出しました。私に、一燈園の懺悔奉仕の生活、宮崎さん眞田さんの隣人に仕へる生活、それから新しい村の生活が思ひ浮べられました。それらこそ正しい生き方だ！

私は幾度か一燈園へ走るとを思ひました。

しかしその度に現在の生活—それを惡んでゐるにもかゝはらず—に對する執着、家庭愛が私をひきとめました。私の性格の弱さは私の決心をにぶらせました。

私は逡巡の内に何日かを送りました。

その内に私は風邪にかゝつて病床に寢ました。身體の病弱なことが私をあやぶませました。

再び起きたときには、私の心は弱くなつてをりました。

「人間には善はなせぬのだ。人が善をなさうなぞとは僭越だ。モータルにはただ業の催しに從ふ外はない。惡人だから如來は救つて下さるのだ。惡人を救つて下さるのだ。そこに大きな如來の慈悲があるのだ。たゞその救を信知して圓らかな終りをまつばかりだ。モータルの分限として許を乞ひつゝ、祈りつゝ、救の信知をもちつゝ惡に從ふばかりだ—か、」私は考へました。

しかし心の一方には依然として聖者の清い生活に對するあこがれがありました。自分の現在の不徹底なにえきらぬ妥協的な生き方をにくむと同時に、先生達の聖人のやうな清い正しい生き方に對して尊敬と憧憬とをもつてをりました。

時には、自分の境遇から逃れ出る努力を多く拂つた後、もう少しで聖い生活に觸れようとしました。

時には、すべての努力が失敗に歸して泥の中に倒れて、その努力を斷念し、たゞ偶像を拜する心持で、その尊い生活に對しました。

先生　その時に私は先生の「懺悔の生活」をよんだのです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

私はこれをよんで全く感動しました。その中の虚飾なき一字一句は十字架を負うた聖者の祝福された靈の叫びです。佛陀の衆生に對する愛です。きはみなき愛です。血塗れの體驗です。おゝ佛陀の心です。

「おゝこれこそ正しい生き方だ。これ丈が正しい生き方だ。地上に許された最善の生き方だ。この托鉢の生活こそ、この懺悔奉仕の生活こそ、これこそ正しい生活だ。

釋迦もそれを行つた。基督もそれを行つた。フランシスもやつた。親鸞も教信沙彌もやつた。

おゝそして、今それをやつてゐる者があるのだ。この物質欲にみたされた世の中に、現にをるのだ。聖者だ!

この生き方こそ正しい者だ。これ丈が正しい生き方だ、これのみが!

私の靈が叫びました。

「この生活こそ正しいものだ。今迄逡巡してをつたお前よ、たて! 今の正しからぬ生活より逃げよ、西田師のもとへ!」

私は立ち上らうとしました。かけ出さうとしました。

あゝ、しかし……

あゝ、私には父母があつたのでした、老いた父と病身な母とが……

行先短い自分達の唯一の希望を子にかけてゐる憐れな父母が……

自分は世には出られなかつたが、せめて子丈は、と私を立派な印度學者にしようとしてゐる、老いた父が……

自分の愛子を立派な僧侶にして祖先代々の寺を相續させようとしてゐる病身な母が……

あはれな父母は貧しい收入から自分達の支出をきりつめて、自分の子の教養に全力をそゝいでをるのです。

行先短い父母は唯一の望みを私にかけてゐるのです。

一燈園の生活こそ正しいものです。私はそれに走りたくあります。

あゝしかし……

私に唯一の望みをかけてる父母の手をふりきつて、どうして私に行かれませう。

どうして私に父母の平和を破ることができませう。

どうして私にそれができませう。

先生　私は須大拏太子の出家を最も賞讃し尊敬し憧憬するものです。

太子こそ人類への最大の愛をなしえたと思ふものです。

しかし私こそは太子に最も遠いものです。

私には恩愛の縛をたつとができぬのです。

どうしてそれが私にできませう。

私は弱き私を悲しみます。

目の前に正しきものをみながら、そこに行かれぬ私を憐れに思ひます。

おゝしかし私にそれを遂行することがどうしてできませう!

先生　正しき事をなさんとしつつも、他人の平和を傷つけるのを恐れるがためにそれをなしえぬ私を憐んで下さい。正しき生き方にあこがれながらもさまたげられそれをなしえぬ私を同情して下さい。聖者の尊い生活をあこがれながらも、それをなしえぬ私を憐んで下さい。泥の中からのがれようとしてのがれえず、のがれえた人の雄々しい姿を、泥の中からあえぎながら前より大きな尊敬をもつてながめてゐる者を力づけて下さい。

性格弱きが故に私を愛して下さい。

西田先生　しかし先生、私が「懺悔の生活」をよんだことは決して無意義ではありませんでした。それをよむことによつて私は更生しました。

私は一燈園に加はることはできません……し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

生の「懺悔の生活」をよんだことを動機としてせめて心丈一燈園の同人方のやうにもちたいと思ひます。

先生　一燈園の生活を尊びあこがれてゐるにもかゝはらず、それに加はりえぬ私のあることを記憶して下さい。

一燈園に病氣のために加りえぬ倉田氏と子弟の教育のために加りえぬ中桐先生と同樣に心弱きがために力强からざるがために一燈園に加りえざる私を園外の同人として下さい。眞理の探求に、隣人への奉仕に、一燈園の心を心として全身を捧げませう!　それを許して下さい。

先生　先生は先生の尊い生き方を眞しぐらに進んで下さい。その姿は敗軍の中にあつて獅子の如く敵中にをどりこむ勇士の姿ですその武者ぶりは逃足たつた味方の兵士を如何ほど力づけることでせう!

先生の正き生活の上に光あれ。(天香氏宛)

•••

●伊藤祐之氏(廣島市幟町一四二ノ二)

御手紙及び雜誌『光』有難く落手致し候。一層引締めて懺悔奉仕の實を擧ぐ可く努力致度候。小生此度の父の死去により俄かに港を出で大洋に乘り出せし如き心持も有之浮世の浪の荒うしてせち辛きを嘗め初め今更楫取る腕の細きを喚ぜられて羅針盤と北斗星の要を感ずる切なるもの有之候、願くは現實の海に乘り出せし一小舟がよく風波と戰つて理想の彼岸に達し得るやう光の御導きあらんことを切に祈り居る次第に御座候。雜誌『光』の原稿を中桐樣の御宅で御約束しました限り此度の不幸の爲についに失禮して終つてゐて相濟まず候。落着きましたら何か社會改造と一燈園とに關して書かして頂かんかと存居候。小生に母校附屬中學より講演を賴み參り許さるれば一燈園の話をさせて頂かんかと考へ居り候乍末筆光の御惠み先生及皆樣の上に豐かならんことを。(天香氏宛)

•••

●河路寅三兄(東京日本麻絲會社)　(上略)

小生去る十六日から伊藤忠三氏に隨伴して北海道各工場視察の途に上り只今各地山方面一巡して此地に歸來致候處に御座候。

今回の旅行は當り前なら社長の初渡道といふので到る處で歡迎やらお振れ舞ひヤヲ大分お騷ぎ可有し筈の處實際はロク樣車にも乘らぬ經費節減の宣傳旅行と存し隨行せる小生としても社長にお氣毒に被存候。

殊に只今は原料亞麻買入の時季に有之昨年の好況に引替へて本年の買入は隨分安直ならざるべからず候まゝ自然農家と利害の衝突を免れ難く六ヶ敷仕事に有之候。

途上社長が貴著懺悔の生活所持被致小生は初めて拜讀の榮を有し候丁度札幌から十勝まで一氣呵成に通讀致候批評がましき事申上候ては恐縮の至りに存し候もホントに車中人知れず暗涙に咽び候事一再にして止まらず其何の故たるを知らず候も一燈園から此立派な藝術の生れたるを無上に嬉しく感じ申候、「一燈園と藝術」の一節はむしろ蛇足と存じあの貴著を見て一燈園の藝術を更らに云々する必要は可無之候。

ミレーの繪によりて自然に對する敬虔なる見方を教へられる我々は「懺悔の生活」によりて眞の生活を教へられ候、私共は理屈によりては中々泣けぬものにて候、私共の持てるある尊きものがあの藝術によりて呼び起されて初めて溢れ出る涙にて候。

私共が經費節約宣傳の旅途に此書を惠まれ候事難有存候小生の宣傳振にも幾分眞面目さを加へられ候事と存せられ候。

光第三號も難有拜讀致候小生は九月六日歸京致候近い中には東上の事は無く候哉お知せ被下度都合にたりては中旬西下の時一度お訪れ致度とも存居候ペンのインキしまへ候まゝ乍殘念擱筆致候。(天香氏宛)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

○編輯者より

●『基督教から光へ』の記者F子姉は關西の某高等女學校の教師です。その多年信仰せられたる基督教と新たに歸依せられたる光との關係につきて最後の斷案を下さうといふのが、此夏歸省中の考察題目でした。本號に『基督教から光へ』と假に題して掲げたものが、その結果です。之を本誌に載せて可いか否かを電報にて伺ひました處、その返電にそへて次ぎの羽書を送られました。讀者の御諒承を得るために、茲に掲ぐることゝしました。

「電報を拜見致しまして取あへず御返事だけ差上げておきました。あんなものが御役に立ちさうでございましたら、御役に立たせていたゞきますのは嬉しうございますが、あんまり間違ひだらけのやうな氣も致しました。然し先生がよいやうにして下さると思ひましてあんな御返事を差上げました。名を出すのがいやなわけではございませんけれど、あんまり宣言のやうに見える樣になるのも考へものかと思ひましたわけでございます。どうせ私の旅路の一里塚に過ぎないのでございまして、またいろ／＼變化してゆくかも知れませんから。定つた私でないと思へばこそ先生に御まかせする氣にもなりました。」云々

●本號表紙の題字は弘法大師の御筆と傳ふる『灌頂記』より頂きました。前號のは既に申しました通り、傳教大師の『天台法華宗年分緣記』中のもので、その『天台法華宗年分得度學生名帳』にある一字です。即ち傳教大師が、天台宗を新に獨立せしむるにつきて、御手許で、止觀若くは遮那の業を卒へ、僧たるの資格を得たる御弟子の名を記錄せられたるものゝ中ですが、傳教大師はそれ等の御弟子を率ひて、當時、弘法大師が高雄山に於て施されたる金剛、胎藏兩界の灌頂に參加せられました。『灌頂記』はその折の受灌者の名を記錄したもので本號の題字は、その中にある傳教大師の御弟子の名より頂きましたものです。我邦に時を同じうして生れたる二大宗教家が、同樣なる事情の下に、同一の人々の名を記錄せられ、而してそれが千數百年後の今日まで傳へられてをるのは誠に離有き不思議な因緣です。

大正十年九月十五日印刷
大正十年九月十五日發行　（代金二十錢）

東京市牛込區原町三丁目五十三番地
編輯兼發行者　中桐確太郎

東京市神田區仲猿樂町十七番地
中外印刷株式會社代表者
印刷者　渡邊市太郎

東京市牛込區原町三丁目五十三番地
發行所　東京宣光社

○振替口座は東京五七六七一番（牛込原町三ノ五三、中桐確太郎）
○郵便爲替にて御送金の方は『牛込若松町局』指定に願ひます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

霊界の偉人逝いて十五年出づべくして出でざりし全集初めて刊行さる

梁川會編輯

（顧問）坪内逍遙　（顧問）五十嵐力　（擔當者）望月世教

（顧問）中桐確太郎　（擔當者）安倍能成　綱島政治

内容見本御申越次第進呈

綱島梁川全集

豫約會員募集（申込〆切十月五日）

申込規定　詳細は内容見本に就いて見らるべし

▽玲瓏たる哲人の心と、敬虔なる聖者の信と、幽寂なる隱士の風とを併せ有し、此れを貫くに一片嚴烈の意志を以てせるは、わが綱島梁川氏也。若し夫れ、假りに大西操山をして叩智を代表せしめ、高山樗牛をして情熱を代表せしむれば、即ち信仰を代表し得べきは梁川氏なるべく、氏を目して明治大正の思想史上、最高占位をむる人と斷ず、又異論なからん。

▽東西の思想史を顧るに、經濟問題の討議盛んなる後を承けて、必ず宗教的傾向の一世を掩ふものあり。蓋し魂を物質の奴隷となれる地位より解放し、人間を機械化の犧牲たらしめんとする危機より救濟し得べきもの、宗教以外に絶無なれば也。これカーライル、エマアソンの巍然として百世に卓出する所以。夙に出づべくして出でざりし梁川全集の、今にして漸く刊行の運びに到れる、豈至重至大の意義なからんや。

▽本全集は梁川氏の全著作を網羅す、未だ嘗つて纏めて書冊の形となりし事なき倫理學說研究の如き大著作あり、文藝雜纂、書簡集亦新材料を加へて面目を一新し、日記は今回初めて世に公にせらるゝもの、氏が幼少の頃小學教師を勤められし時に初まり、晩年宗敎的信仰の漸く深からんとする時に到りて止む。これ一個貴重なる靈的自覺史たると共に、又文物變遷の跡を窺ふに好箇の資料を供するを疑はず。論述の的確を以て聞ゆる倫理學の諸書、所謂「見神の實驗」を中心として信熱一世を風靡せし「病間錄」「回光錄」等の價値に就いては、茲に縷說を須ゐざるべし。

▽坪内逍遙博士は梁川氏の恩師也。第一巻の巻頭に長文の感想一篇を寄せらる。全集之がために一層の光彩を添へん。各説の解説は安部能成氏の執筆にかゝる、精到の識見、必らず讀者を啓發する事多かるべく、梁川氏の評傳は中桐安部二氏の協力になる。必ず故人の風丰を傳へて遺憾なきものあらん。

▽梁川全集全九巻、元よりこれ新奇を追ひ、流行を迎へて狂奔する輕佻浮薄の出版物にあらず。只求めて未だ與へられざりし眞摯の求道者叩きて未だ開かれざりし篤實なる研學の士は、ここに初めて心願の國あるを發見せん。本全集が吾邦文化史上に一大貢獻をなし得べきは、出版者の窃かに期する所也。

第一巻　東西倫理思想史
第二巻　西洋倫理學史
第三巻　倫理教育論集
第四巻　倫理學說研究
第五巻　病間錄・回光錄・病床雜筆
第六巻　我觀錄・寸光錄・我觀手びかへ
第七巻　文藝雜纂
第八卸　書簡・日見
第九巻　ルナン著　耶蘇傳　見神論評　病間錄批評集

豫約申込所　東京神田表神保町　春秋社（電話神田二一三八　振替東京二四八六一）　杜翁全集刊行會

大正六年八月五日第三種郵便物認可

一燈園　西田天香著

懺悔の生活

忽二十三版

四六版四百三十頁
背布函入堅牢美本
コロタイプ版二葉
定價金貳圓五拾錢
送料金拾四錢

▽洛外鹿ケ谷に褐衣繩帶の一團あり、名けて一燈園と云ふ。同人は一物半錢を所有せず、常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞す。その園主を西田天香氏となす。

▽天香氏とは何人ぞ。嘗って倉田百三氏の名作『出家とその弟子』が一世の讀書界を動かしし時、一部の人士は作中の親鸞と唯圓とを目して、暗に天香師の心の兩面を材としたるものと噂し合へり。吾人は茲にその當否を斷ぜず、只、倉田氏が西田師に私淑する事日久しきを言へば足る。

▽綱島梁川氏は十數年前豫言して言へり。世は自らにして西田氏を知るの機あらんと。本書は西田氏が前半生の追憶、轉機の經路、現在の心境を具さに披瀝すると共に、併せて同人の行事逸話等を批判したる一個の新らしき使徒行傳也。

東京市神田區表神保町拾番地
（振替東京二四八六一
電話神田二一三八）
春秋社　發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN